JCI

2010-2011 ANNUAL REPORT

明日に架ける橋

－あなたの可能性が北九州を創る－

KITAKYUSHU 2011

社団法人 北九州青年会議所
Junior Chamber International Kitakyushu

理事長所信

社団法人北九州青年会議所
第59代理事長
永田 康浩

明日に架ける橋

－あなたの可能性が北九州を創る－

KITAKYUSHU 2011

～荒れた海に架かる橋のように、私はこの身を横たえよう～

（原題：Bridge over Troubled Water　詞：ポールサイモン）

はじめに

1992年1月14日 北緯34度24分 東経151度16分。

低気圧通過に伴う西寄りの暴風は、太平洋上に巨大なうねりを作りだし、突如として現れたビルのような高波は、次々と我々に襲いかかって来た。誰もが恐怖に脅え、生唾を飲み込み、がむしゃらにライフラインにしがみ付くしか方法が無かった。

その時、当直航海士の大声が甲板上に響き渡る。

「実習生!ビビるんじゃない!この船は絶対に沈むことはない!なぜなら、この船は日本の海技を伝承してきた練習帆船日本丸なんだ!」

何故だかは分からなかった。しかし、その叫びには絶大な信頼と、この船を確実に目的地まで導いてくれる説得力があった。我々は再び立ち上がり、手の皮が裂け、血で汚れたブレースロープを、ただひたすらに引くのだった。

私たちが暮らす現代の社会も、荒れた洋上に浮かぶ小さな船と同じように、噴出する様々な社会問題が巨大な波となって、次々に押し寄せてきています。劇的に変化する現実に不安を抱き、ただライフラインにしがみ付いたまま、時の静穏を待つのか。それとも、この荒波を切り裂くために勇気をもって立ち上がり、推進力を得るためのロープを引くのか。そして、人々を奮い立たせ、未来への希望を抱かせる勇気を与えるのは誰なのでしょうか。

かつて、この国の歴史に名を馳せた人々の多くには、自らが師として仰ぎ、尊敬や憧れを抱く指導者との出会いが、その後の人生に大きな影響を与えた事として伝えられています。現代よりもさらに混迷を極めた時代。自分を取り巻く社会環境を悲観することなく、未来への期待を抱き、己の思想と志を高めることが出来たのは何故なのでしょう。それは、指導者や師の偉大なる背中を透過し、意気軒昂に活躍する自分の未来を見る事ができたからであり、そして、その多くが青年期という貴重な年代に、多様な価値観を目の当たりにする事によって自らの可能性に気づき、それを確信とするための修練により意識が高められたことは歴史が明らかにするところです。

では、彼らと同じ青年期を迎え、目を背く事の出来ない、さまざまな現実を突き付けられた現代に生きる私たちは、どのような形で社会と向き合うべきでしょうか。それは、かつての先人たちと同じく、多くの人々との出会いや多元的な価値観との遭遇によって見出される、自己の可能性の発見にあるのです。

私たち北九州青年会議所(以下、北九州JC)は、JCの三信条の下、明るい豊かな社会の創造を目指した青年運動を通じ、このまちに様々な歴史を刻んで参りました。この歴史というものは、単なる事業や作業の連続ではなく、人々の志の積み重ねに、自らの可能性によって高められた革新の志を積み重ねていく事にあります。しかし、この自らの可能性というものは、歴史の書物に登場する崇高な人物や有識者の教えから感じられるものだけではなく、私たちのすぐ身近な場所からであったり、その場所に秘められた人々の想いであったり、あなたのすぐ隣に座っている仲間たちから感じられる事でもあるはずです。

次代に続く人々や子どもたちは、いかなる状況にあっても社会と真剣に向き合い、歯を食いしばって志を高めるあなたの姿を憧憬することにより、未来への希望と期待を抱くことができ、主体的に行動していく意識が醸成されます。つまり、あなたの可能性は、志を同じくする者の可能性であり、その集合体であるJCの可能性は、このまちの未来に対する変革の可能性を大きく飛躍させ、この国の更なる発展へと繋がることになるのです。

このまちの明日へと続く架け橋を築いて行こう。個は小さくとも、私たち一人ひとりの可能性がお互いを支え合い、高く掲げた強固な架け橋を築こう。全ての世代の人たちが安心して歩んでいける明日への架け橋を築くことは、このまちに生きる青年としての使命であり、私たち北九州JCの使命でもあるのです。

2011年度北九州JCは、以下の六つを基本方針として、明るい豊かな北九州の構築のために運動を展開して参ります。

このまちの魅力的な価値を見出す

かつてこの国の近代化産業の発展を支え、また海上交通の要衝として発展した門司港。時代の流れと共にその役割は変わってきましたが、現在では大正浪漫の香りを醸し出す観光地「門司港レトロ」として、家族連れや多くの観光客で賑わっています。この門司港と対岸の下関との間に、早鞆ノ瀬戸と呼ばれる狭い海峡があります。この海峡は、アジアと北九州、また阪神地区までを結ぶ重要な船舶航路であり、一日に約1,000隻の船舶が輻輳する、海上交通の難所としても知られています。大きくS字にカーブする複雑な地形と早い潮流。最狭部はわずか650メートルしかないこの海峡では、古くから多くの船が難破や座礁、衝突事故を繰り返してきました。かつて海洋技術が乏しかった時代、ここを通峡する船に乗り合わせた人々は、ただ無事を祈ることしかできませんでした。この海峡の東の玄関口に、部埼灯台という文化的にも重要な灯台があります。その灯台の麓に、ここを航行する船舶の道標として松明を灯し続けた僧・清虚の像が立っているのを見た事があるでしょうか。海上関係者、もしくはレジャーや釣り船など、海からしかその姿を望む事は出来ないかもしれませんが、かつて海からこのまちを見続けた私としては、語り継がなければならない大切な話があるのです。

僧・清虚は、安永6年(1777年)現在の大分県国東市国見で生まれ、17歳の秋祭りで相撲を取った時に、つい力余って友人を死なせてしまいます。心中深く憂いを秘めて生きる清虚は、40歳を過ぎて出家し、死なせてしまった友の菩提を弔うため高野山へ向かう途中、船便でこの部埼沖を通過します。「魔の海」とも呼ばれていたこの海峡に向かって無事の通峡を祈る人々の姿から、清虚は岬の上で焚き火をして、夜間航行する船の道標となる決心をするのです。昼は托鉢をして資材を集め、夜は通峡する船の安全を祈りながら火を焚きました。一日一食しか食べず、一日も怠らず火を焚き続ける清虚の姿を見て、始めは笑っていた村人たちも、やがてこころを動かされ協力をするようになるのです。清虚がこの世を去っても、村人たちはその火を絶やさず、明治5年に現在の洋式灯台が建てられることになりました。この清虚の偉業は、今でもこの海域に安全をもたらし、この海で暮らす者のこころを照らし続けているのです。

世のため人のために生きることが馬鹿らしいと答える、自己中心的な考えが蔓延する現代社会において、私たちは未来に何を伝えなければならないでしょうか。かつてこの海を生業としていた私にとって、世のため人のために生きた清虚の偉業からの恩恵を受け、今がある事をありがたく思います。そして彼を支え、受け継いできた人々のこころが宿るこのまちに生を享けた事をありがたく思います。このまちを築いた様々な歴史には、そんなこころの功績が至る所に存在するのです。様々な運動を通じて社会変革を訴えるJCであるならば、そこに落ちた汗の一粒を感じて欲しいのです。まずは、なぜその人がその運動を始めたのか、なぜその場所にそのこころが宿ったのかという、あなたの探究心を高める事からはじめましょう。そこから、私たちの道が見えてくるはずです。そこに宿ったこころを感じることが人々の琴線にふれる運動であり、JC運動でいう創始の精神であり、すべての運動の根幹であるのです。

明るい豊かな北九州を創造する

私たちJCは、希望に満ち溢れた明るい豊かな社会の実現にむけ、次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界の推進力となるために、日々ひたむきにJC運動に邁進しています。では、明るい豊かな社会とはどのような社会なのでしょうか。

国連開発計画(UNDP)が発表した2009年度版「人間開発報告書」によると、国民生活の豊かさを示す指数で、日本は前回より順位を二つ落とし、世界10位という結果でした。この指数は平均寿命や就学率、一人当たりのGDP(国内総生産)などから算出されますが、確かに私たちの生活を見てみますと、贅沢な食事にあずかり、最先端の医療技術やハイテクノロジーの発展、高度経済成長時代の恩恵により、便利で快適な生活を送っていることは間違いないでしょう。また、国の社会政策や産業構造などの違いにより、この指数上位の国が必ずしも優れている、と言いきれない事も多くあると思います。

しかし、ここで注目したいのは、この国に蔓延していると言われる様々な問題は、この指数が上位の国においても同様に起きていることであり、日本を代表する問題だけではないということです。では、豊かさの基準はどこにあるのでしょうか。それは単純に、「あなたは豊かですか。」との問いに、「私は豊かです。」と自信をもって答えられるか、ということにあるのではないでしょうか。

ある国では、長期間に及ぶ経済危機により、エネルギーの枯渇問題と、深刻な食糧難に陥った時期がありました。現在では、世界でも異数な平和で豊かな国として知られるまで、驚異的な回復を遂げましたが、その当時は国民全体が飢え、どこの家庭も停電状態が続く中、病院だけは煌々と電気が灯されていた事に、国民は自国への絶大な信頼を持ったと伝えられています。国策や社会構造、時代背景の違いなど、一様に決めつける事は出来ない複雑さはあるものの、その国の人々の連帯感や精神性といったものが、現在のその国を形成し、その危機を乗り越えた一因であったことは間違いないでしょう。

近年、私たちが追い求めた、人を豊かにするはずの物質的効率を優先する社会は、皮肉にも人の豊かさを奪い、国の豊かさも失ってしまったのではないでしょうか。

明るい豊かな社会を創り上げようと、市民意識変革運動を推進するJCであるならば、まずは私たちJAYCEEが「明るく」、そして「豊か」でなければなりません。JCを個人の機会として捉えるならば、現代の豊かさの中におかれる自分を見つめ直し、自分づくりの機会に積極的に参画することで、自分自身に秘められた変革の可能性を見出し、己の価値を高める絶好の機縁として捉えてみましょう。様々な修練の中において積んだ徳は、私たち自身の豊かさとなり、その豊かさは私たち自身を明るく元気にする糧となるはずです。そして、たゆまない努力を重ね、地域社会のリーダーとして堂々と活躍するあなたの姿を世に示すことは、多くの知己を得るJCの好機でもあり、JC運動に力を注ぐ後進の育成にも繋がることになるのです。さらに、私たち自身の成長は、JCに会員を送り出している会社や私たちを支えてくれる人たち、そして市民が最も期待している事でもあり、JC運動をさらに推進していく為にも欠かせないことであるのです。

あなたは明るいですか。あなたは豊かですか。

真の国際人を育成しよう

「朝太陽が昇り一日が始まる。人々は目覚め仕事に向かう。やがて日が沈み人々は仕事を終えて家に戻り休む。夜が来て月が天に上る。その繰り返しが今日も明日も明後日もずっと続いていきます。静かに美しく毎日が過ぎていき、全てが、色々なものや人々の役割がきちんと機能している。今日の続きとしての明日を。明日の続きとしての明後日を安心して待つ事が出来るので、未来への期待も持つ事が出来ます。一日一日が平安と共にあります。日本の経済力やハイテクノロジーなどの世界に誇れる力はここから生み出されるのです。」

これは、ある日本で暮らす外国の方が、日本を紹介するために書かれたものです。私たち日本人は、未来や将来のことを考えてその計画を立て、明日のために今日するべき事を行える国民であると言えるでしょう。しかし、世界に目を向ければ、紛争や様々なトラブルにより「明日」さえ考える事が出来ない国も多くあるのです。

今、私たちが安心して平和に暮らす現代の社会は、先人たちのたゆまない努力によってもたらされたものです。近年、様々な国益が乱立する厳しい社会情勢におかれ

る我が国において、私たち世代のために残された平和を、子どもたちの世代に繋げるためには、アジアにおける国際的な関係や国際貢献といった様々な課題についての意識を、私たち市民一人ひとりが関心を持たなければなりません。「人類の同胞愛は国家主権に超越する」という理念の下、世界の安定と平和に寄与するために運動を行うJCであればこそ、この国における最高の価値であり、唯一残された資源ともいえる「人」の育成に注力しなければならないでしょう。その個々人との間で行われる緊密で多元的な民間外交こそが、これからの国際社会における相互発展のために、最も必要とされる機会であるのです。

私たちは、青年経済人という立場で日々の稼業に勤しんでおり、自分の会社や企業、所属する団体についての特徴や活動については、熱心に語ることが出来ると思います。では、外国の方に「日本とはどのような国か」と、質問されたとき、即座に答えることができる人はどれくらいいるでしょうか。様々な伝統や文化、受け継がれてきた素晴らしい日本人の精神性など、改めて日本全体の事を指して表す事は難しいかもしれませんが、私たちが暮らすこのまちのことを通じて日本を表現するのであれば、自信を持って多くの魅力を語る事が出来るはずです。

私たち北九州JCは長きにわたり、様々な国際交流事業を継続して行ってきました。その事業によって育まれた友情こそが、世界の恒久的な平和に直接的に寄与する、世界的なJC運動の基盤であるのです。私たちは受け継がれたその目的をしっかりと理解することによって、私たちのまちに誇りと愛着を持ち、自らの言葉で文化や歴史、課題を語ることができ、互いの違いを尊重する、真の国際人を育むことが出来るのです。

地域アイデンティティの確立にむけて

近年、東アジアや中東情勢を伝えるニュースや報道、また映画やゲームなどの流行により「海賊」という言葉をよく耳にすることがあります。映画や物語では海賊旗「ジョリー・ロジャー」を掲げ、無抵抗を呼び掛けた後に、金品や積荷を略奪するといったイメージですが、近年問題となっている海賊の手口は、積荷の略奪はおろか、武装した集団が乗組員を人質に取り、高額な身代金を要求するなど、事態は深刻さを増す一方です。

かつて、私が航海訓練生だった頃、マラッカ海峡を通峡する際に海賊船に遭遇した事があります。当時からも、この海域においては海賊被害が多発しており、海賊を警戒する当直に就いたのですが、民間船舶には武力行為に対抗する装備があるわけでもなく、登って来ようとする海賊に向けて高圧水をあびせるという、原始的な手段しかありませんでした。私たちは暗い海面に向けて散水を続け、暗闇をサーチライトで照らし、舷梯から身を乗り出し、半ば狂乱的に叫び、警戒しているという我々の存在を見えない敵に向けて知らせました。その時、我々の支えであったもの、それは紛れもなく、たった一枚の日本国旗だったのです。公海上の国際的なルールとして、船舶は国旗を掲げることが義務付けられていますが、通常では日出と同時に掲揚し、日没とともに降納するとされています。

しかし、この時ばかりは国旗を高々と掲揚させ、この本船自体がひとつの国であるということ、つまり日本国そのものであることを示すと同時に、我々がこの国と仲間を守らなければならないという強い使命感に駆られたのです。

私たちJCは、国家や地域に対するアイデンティティを確立することの重要性について、多くの時間を費やし議論を重ねてきました。このまちに暮らす人々や未来を担う子どもたちに、地域に対する愛郷心を醸成させ、まちの発展のために尽くすこころを育もうとするのであれば、まず私たち自身が、このまちの代表であると自覚することにあると思います。一個人がその地域の代表であるという意識は、このまちの代表であり、このまちの代表はこの国の代表であるとの意識に繋げる事が出来るはずです。その意識に気付かされる機会は私たちの身近なあらゆるところに有るはずですし、またその探究や研究に努めることは、JCの最も得意とするところではなかったでしょうか。

環境意識を向上させるために

ダウンバーストと呼ばれる気象現象をご存知でしょうか。局地的で短時間のうちに上空から吹く極端に強い下降気流のことで、下降噴流とも言われます。航空機の着陸事故や練習帆船アルバトロス号の沈没を題材とした映画「白い嵐」で有名になりました。このダウンバースト現象は、発生の予測や前兆傾向が分かりにくく、また台風などのある程度予想される暴風(瞬間風速20～40m/s)を上回る強風が突如として吹くため、昔から船乗りの間では伝説の嵐として恐れられてきました。私は、実際にこの嵐と遭遇し、瞬間風速60m/sを振り切る猛烈な暴風雨と、下降気流で舞い上がった海水によってホワイトアウト状態に陥り、両舷10節の錨を降ろした大型船舶が数kmにもわたり走錨する事態に陥った経験があります。この嵐の発生は、外国や遠い洋上での話ではなく、私たちのごく身近な場所で発生したことであったのは、異常気象現象が私たちの身近な問題であると痛切に実感することになりました。

私が経験した気象現象のように、各地で発生する異常気象がもたらす災害は、私たちの生存と将来を脅かす地球環境全体の問題となっています。私たちのまち北九州は、世界の環境首都として持続可能な社会をつくるために、産学官民が一体となった運動を行ってきました。世界の環境首都の市民としての自覚をもって行われる様々な運動は、公害克服の歴史から人類の生命の尊さを学んだ、私たち市民の「公の精神」という大切な精神性によって行われるものであり、今や地球上に生きる全ての人々の為ではなくてはなりません。

また、このダウンバースト現象は、気象学者の藤田哲也氏(北九州市小倉南区中曽根出身)によって発見されました。藤田氏は、少年時代に中曽根の自然に親しむことによって科学や自然、天文学に興味を抱いて勉学に励まれ、1963年には気象学のノーベル賞ともいわれる「応用気象学会賞」を受賞されています。藤田氏の気象研究を通じた世界への貢献は、このまちの自然環境に対する意識が培ってきたものでもあり、今このまちに生かされている私たち青年の使命は、世界に貢献しうる持続可能な北九州へと導くために、率先して行動していくことにあるのです。そのためには、これまでの様々な取り組みから、企業や団体などとの連携はもちろん、私たち自身の視野を広げ、大局的な視点から広域的な運動展開の可能性を見つける必要があります。JCのスケールメリットを生かすことはもちろん、このまちの環境首都市民としての誇りを、地球上に生きる全人類共有の誇りとなるような、北九州JCの情熱から生まれる運動を推進していきましょう。

全国会員大会の成功にむけて

明治維新以来、国家百年の大計を担う重要な役割を果たしてきたこのまちには、現代に至るまでに噴出する様々な問題に対して、自分たちの力で何とかしようとする、先人たちの果敢なる挑戦の歴史があります。五市の対等合併や公害問題の克服、先駆的なものづくりの精神や環境技術の国際貢献など、先人たちは多様化するわがまちの価値観に進取的に取り組んできました。その様々な功績のもとには、愛すべきわがまちに立ちはだかる困難に発奮する、北九州人の気質があったと言えるでしょう。

私たち北九州JCは半世紀以上にわたり、青年運動の旗手として様々な運動を展開し、その運動の多くはこのまちの大きな価値として発展を遂げ、また市民の意識を大きく変える力として伝わりました。そして今、私たちは全国会員大会主管という過去最大の好機を迎え、我がまちの新たなる可能性の扉を開く歴史的な瞬間を迎えたのです。この大会がもたらす様々な効果を、瞬間的な一過性のものにしない為にも、私たちはこのまちの未来を見据えた北九州のビジョンや理念を明確にし、大会の準備や主管開催に至るまでのプロセスを、多くの市民や仲間たちと共にする事が重要であり、その関係性を強固なものとしなければ、私たちが目指す新たな社会までには至りません。そのためには、この大会が誰のために、何のために開かれるのかという私たちの社会的役割を認識し、様々な関係団体や行政との連携を継続して行い、大会主管の最終準備年度としての自覚を持って役割を確実に果たして参りましょう。

そして、私たちには全国に多くの青年同志がいます。もし、あなたの家に大切な同志が訪れるとすれば、まず何をするでしょうか。部屋の整理や掃除を行い、お菓子や飲み物を買い、夕食をつくる。くつろげるソファーを準備し、楽しめるDVDや音楽などを選ぶ。家までの道筋を書いた地図を送り、お土産を準備するなど、その思いは皆それぞれに募るでしょう。その時、訪れてくれた同志への敬意を込め、私たちの最大にして最高の歓迎の気持ちを具体的に表すことが、全国会員大会の成功の一つであることも認識しなければなりません。

また、日本青年会議所本会や九州地区協議会、福岡ブロック協議会との関わりは、JC運動の本質を学ぶことができ、さらには大会主管LOMとしての連携を深めることと同時に、多くの志高き同志との出会いは、あなた自身を大きく成長させる機会にもなります。このまちの素晴らしい価値を伝えるのは、まずはここで巡り合った大切な同志に対してから始まり、このまちを多角的に捉えた経験があってこそ、LOMメンバーや多くの人々へ説得力をもって伝えることができるのです。全国には、あなた自身の可能性を大きく広げてくれる、素晴らしき同志が多くいる事を経験してみましょう。

全国会員大会主管は、JC運動そのものであり運動の縮図です。2011年度に行われる全ての事業は、このまちの未来を見据えた大会を成功へ導くための、具体的な準備と行動であるのです。その運動の能動者たる私たち全てのメンバーが気概と責任を持ち、LOM一丸となった運動を推進して参りましょう。

終わりに

アイザック・ウォルトン(1593年－1683年)イギリスの随筆家、伝記作家。

彼が執筆した代表的な作品の中に、Study to be quietという引用節があります。「静かなることを学べ」と訳され、また神学者は新約聖書に出てくる言葉として、「静かに生きることを学べ」とも訳されていますが、私はこれを「自然から学べ」と解釈しています。彼は、身近な自然と触れ合う事から、社会構造や人間としてのあり方を問うまで思想を深め、自らの生き方を世に示しました。

時は過ぎ、様々な社会進化が遂げられ、バイオテクノロジーや先端的な科学技術が発展した現代においても、私たち人間は、あたり前に存在する自然のサイクルを再現する事や、有機体を完全に造りだすことすら出来ません。様々な関係性が葉脈のように絡み合って成り立つ自然は、人間が全身全霊をもってしても探求出来ないのかもしれません。

この国に伝わる様々な文化や伝統からも読み取れるように、人間と自然が調和することの大切さを感じ、そして、その調和に憧れをもって表現されているものが多くあります。人間という個人から、自然という全ての環境から成り立つ社会への貢献は、先人たちより私たちに残された重要なメッセージではないでしょうか。

私たちは、このまちに生を享けた青年として、人生のこの貴重な時間をどのように使うのかを意識し、私たちと社会との間に無数に張り巡らされた関係性が、このまちの社会を構成している事を自覚しなければなりません。つまり、全ての環境を繋げるのは私たち自身であり、私たちの生き方や考え方が、結果的に誰かの環境に影響を与える事を、私たちは決して忘れてはならないのです。

変革の可能性という名のセイルを大きく開き、未来への責任と使命を持ったJAYCEEの英知は、やがて多くの仲間や市民の共感を呼び、このまちを牽引する強い推進力となります。無限なる可能性を秘めた、このまちの未来への真針路をしめす羅針盤を手に、明るい豊かな北九州を目指す地域社会のリーダーとしての姿を、互いに示そうではありませんか。

基本理念 **あなたの可能性が北九州を創る　共に築こう明日への架け橋**

基本方針

1. このまちの魅力的な価値を見出す、まちづくり事業の構築
2. 明るい豊かな北九州を創造する会員の意識醸成
3. 真の国際人が実践する、緊密で多元的な民間外交の推進
4. 北九州市民の地域アイデンティティを確立させる運動の推進
5. 環境首都市民としての意識を向上させる運動の展開
6. 全国会員大会の成功にむけた実践的な運動の推進

ENGLISH

Bridge over Troubled Water

~ Like a bridge over troubled water. I will lay me down. ~

(Songwriter : Paul Simon)

Introduction

By drawing inspiration from you, who face societal issues with integrity and increase our hope, children whom will form the next generation will come to proactively embrace the future with hope and expectation. In other words, your ability is our ability and will help define the ability of JC to determine our city's future, and in turn the growth of our country. Let's build the bridge that continues to brighten tomorrow for our cities. Individual actions would synergetically support each other and these actions would build a firm bridge towards the future. It is JC`s mission to build the bridge for a bright tomorrow.

Discovering our City's Unique Values

Given the increasingly self-centered nature of modern society, what kind of message do we want to deliver to the future? I am grateful for being from a city so full of blessings and humanity given to us from our predecessors. Distinguished services and products arising their passion and heart can be seen everywhere. If you belong to the Junior Chamber International with purpose and intent to revolutionize our social infrastructure, you may want to start thinking about why the JC was established and what motivated the founders to establish this organization. This can help form the motivation and foundation of our own actions.

Creating a Bright and Rich Kitakyushu

If we aim for a bright and rich society, we, as JACEE, have ourselves to have a bright and rich attitude. Societal abundance gained through tradition would be a virtue and would help us to be bright and shine. Becoming a leading force in our local society provides us with great opportunities to develop a wide range of connections and to train the younger generation. It is essential for the people and citizens who wish to help and support us to promote and develop our activities further.

Cultivating True International Citizenship

In recent years, considering the current severe social environment, we as individual citizens have to consider our international relationships with the rest of Asia and how to contribute to the world in order to promote peace for the next generation. Remember that our organization is established to provide development opportunities that empower young people to create positive change which contributes to world stability and peace. Diplomacy amongst private citizens would translate to diplomacy in a wider international context.

Establishing a regional and local identity

A lot of time was taken to establish the identity of our nation and city. In order for children to develop a love for their hometown and proactively care for it, we need to recognize that we are leaders in our city. Further, we have to recognize that we are not only a leader of our city, but also of our nation. There are many opportunities to consider in this regard, but importantly many of these opportunities are not only given to us but need to be actively sought out. Responsibility as first a town leader extends to that of a city leader and then one of the nation. Opportunities to act on this principle exist everywhere and I believe that we are good at seeking out and researching these opportunities.

Accelerating environmental awareness

Natural disasters are a problem for the entire global environment and threaten our future. As an environmentally focused city, we have been working to cooperate with industrial, academic, governmental, and civil entities. Through historical actions taken as an environmental capital, we learned the importance of human life. This movement was accelerated through the spirit of the citizens in Kitakyushu city, called 'kou no seishin', which is the spirit to care not only about ourselves but also our surroundings and all the people on the earth. Based on the passion of Kitakyushu JC, let us continue to pursue this movement, transforming our pride as the citizens of an environmental capital to also pride as a citizen of the Earth.

Aiming for successful national conference

We got the best opportunity in the past which would become a host city of the JC national conference in 2012. As an important preparatory step before the JC national conference, we have to clarify the vision and mission of Kitakyushu JC and the relationships between our members, the area's citizens, and related industrial and governmental groups have to be clarified. It is suggested that we recognize our social role and responsibility and continue the close cooperation with the variety of related groups so as to best be able to satisfy our role in this important new year 2011, a year before the national conference year 2012. The JC national conference is meant to be synthesis of both our movement going forward as well as actions taken in the past. Let us promote and pursue our movement and action with the united LOM in order to lead to the success of the national conference and support the bright future of our city.

Conclusion

Our culture and tradition are based on the beautiful harmony between human beings and nature. Contributing to society, including the natural environment, is an important message from our predecessors. We must never forget that our city consists of close relationships of a variety of groups, a wide circle of friendships, and strong societal cooperation. In short, me must keep in mind that what we do and what we think may affect someone's position and the environment and we are the ones who can make our circle bigger, cooperation stronger, and peoples' lives better and brighter.

CHINESE

通響明日的橋梁

～惡水上的大橋，我將伏下，幫助您走過～

（歌曲名稱：Bridge over Troubled Water（惡水上的大橋）歌詞作者：保羅・賽門）

（日文的歌曲名稱：通響明日的橋梁）

【前言】

下一代的孩子們，憧憬你懷著青雲之志，認真面向社會的態度，從而對未來滿懷希望和期待，積極地采取行動。就是說，你的可能性就是我們的可能性。青年會議所（JC）是一個團體。它的可能性就是城市未來變革的可能性，同時也聯系到國家進一步的發展。

讓我們構建一座通響明日的橋梁吧。讓我們每個人的可能性互相支持，構建一座高超堅牢的橋梁。構建一座能讓所有世代的人安心地走響明日的橋梁是我們北九州青年會議所的使命。

【尋找這座城市富有魅力的價值】

現代社會蔓延著以自己為中心的想法。在這樣的社會中，我們要把什麼傳遞給未來。我生於一個能夠享受前輩偉人的恩惠、併承繼了前人心靈的城市。對這一點我是十分感謝的。在這個城市的歷史中，到處存在著這種心靈的豐功偉績。青年會議所如果是一個通過各種運動變革社會的團體，那麼讓我們首先提高探求之心，理解為什麼要開始這種運動。感受到這種心靈就是一種動人心弦的運動，是青年會議所運動中創始的精神，是所有運動的基礎。

【創造明朗豐饒的北九州】

青年會議所（JC）的目標如果是要創建一個明朗豐饒的社會，我們 JAYCEE（JC 的會員）就必須明朗豐饒。如果認為青年會議所是一個個人的機會，我們就要掌握遭遇自我變革的可能性，提高自我價值最佳的良機。修練的積德使我們更豐饒，這種豐饒讓我們心境明朗、精神抖擻。在地區社會成為領袖是一個讓青年會議所獲得眾多知音的良機，同進也能培養後起之秀。支持我們的人和市民最期待的是我們的成長。為了進一步推進運動，我們的成長是不可缺少的。

【培養真正的國際人】

近年來，我國處於嚴峻的社會形勢中。為了把保留下來的和平傳遞給兒童的世代，我們每個市民要具有在亞洲中建立國際關係和對國際作出貢獻的意識。青年會議所要展開為世界的穩定與和平作出貢獻的運動，就要致力於培養「人」。「人」是我國的最高價值，也是一種資源。人與人之間展開的緊密、多維的民間外交將會聯系到今後國際社會的互相發展。我們需要培育能夠尊重彼此的不同的真正的「國際人」。

【為了確立地區的特性】

為了確立國家和地區的特性，青年會議所花費了大量的時間。為了讓居住在這個城市的人和肩負未來的兒童對本地區懷著愛護家鄉的心情，抱著為城市發展盡力的胸懷，我們每個人首先要自覺地成為這個城市的代表。每個人是這個地區的代表的意識，將聯系到代表這個城市、代表國家的意識。我們的四週到處都存在著發現這種意識的機會。探討和研究這種意識是我們最擅長的工作。

【為了提高環境意識】

目前，反常氣候所帶來的災害是威脅我們未來的整個地球環境的問題。以建立可持續社會為目標，作為世界環境首都的北九州市多年來產學官民團結一致展開了運動。北九州市市民是世界環境首都的市民。市民在運動中學到的是通過克服公害的歷史，領悟到人類生命的可貴。北九州市民的運動是根據「為公的精神」這一重要的精神展開的。這種運動今後必須為居住在地球上所有的人展開。這種運動是由北九州青年會議所的熱情誕生的。我們要把這種環境首都市民的自豪轉變為居住在地球上的全人類共享的自豪。

【為了全國會員大會的成功】

我們正要迎接舉辦全國會員大會這一前所未有的良機，正要迎接翻開本市新篇章的歷史時刻。我們要闡明北九州的藍圖和理念，要與更多的市民和朋友共同展開大會的籌備和舉辦工作，使我們的關係更加牢固。我們要認識我們在大會中的社會作用，繼續和各種團體進行合作，穩當地發揮最後籌備年度的作用。舉辦全國會員大會就是青年會議所運動，同時也是本運動的縮影。為了本市的發展，為了大會的成功，讓我們 LOM 團結一致，推進運動。

【結語】

在我國的文化和傳統中，尋求人類和自然的和諧，或表現出憧憬這種和諧的極多。所有環境都是通過自然構成的。這種對社會的貢獻是祖先給我們留下來的重要信息。我們青年人生於這個城市，必須領悟到我們與社會之間所存在的千絲萬縷的關係是構成這個城市的因素。就是說，聯系到所有環境的是我們自己。我們的生活方式和想法將會給他人的環境帶來影響。我們切不可忘記這一點。

KOREAN

내일을 잇는 다리

~ 거친 바다를 잇는 다리와 같이 나는 이 몸을 눕인다. ~
(원제: Bridge over Troubled Water 가사: 폴 사이먼)
(일본어역: 내일을 잇는 다리)

【머리말】

다음 세대를 이어가는 어린이들은 사회와 진지하게 마주 보고 높은 뜻을 가진 당신의 모습을 동경함으로써 미래의 희망과 기대를 품고 주체적으로 행동해 간다. 즉, 당신의 가능성은 우리들의 가능성이며, 그 집합체인 JC의 가능성은 이 도시의 미래에 대한 변혁의 가능성이 되고 이 나라의 더욱더 발전과 연결된다.

이 도시의 내일과 잇는 다리를 구축하자. 우리들 한사람 한사람의 가능성이 서로를 경려하며, 높고 강건한 다리를 구축하자. 모든 세대의 사람들이 안심하고 걸어 갈 수 있는 내일에 다리를 만드는 것은 우리들 키타큐슈 JC의 사명이다.

【이 도시의 매력적인 가치를 찾아낸다】

자기중심적인 생각이 만연하는 현대사회에 있어서 우리들은 미래에 무엇을 전해야 될까? 나는 이 도시의 위인들께 은혜를 받고 계승되어 온 사람들의 마음이 머무는 이 도시에서 생명을 얻게 된 것에 감사한다. 이 도시의 역사에는, 그런 마음의 공적이 곳곳에 존재한다. 여러가지 운동을 통해서 사회변혁을 호소하는 JC라면, 왜 이 운동이 시작되였는가를 생각하는 당신의 탐구심을 높이는 것부터 시작하자. 거기에 머문 마음을 느끼는 것이 사람들의 마음에 닿는 운동이며, JC 운동에서 말하는 창시의 정신이며, 모든 운동의 근간이다.

【밝고 풍요로운 키타큐슈를 창조한다】

밝고 풍요로운 사회를 목표로 하는 JC라면, 우리들 JAYCEE가 밝고 풍부하지 않으면 안된다. JC를 개인의 기회라고 하면, 자신의 변혁의 가능성을 만난 높은 가치를 절호의 기연으로서 생각하자. 수련에서 쌓은 덕은 우리들의 풍부함이 되고 그 풍부함은 우리들 자신을 밝고 건강하게 한다. 그리고, 지역사회의 리더로서의 모습을 세상에 내보이는 것은 많은 지식을 얻는 JC의 호기이며, 후계자의 육성에도 연결된다. 우리들의 성장은 우리들을 경려하는 사람들이나 시민이 가장 기대하고 있는 것이며, 운동을 더욱더 추진해 가기 위해서도 필수적인 것이다.

【참된 국제인을 육성하자】

최근, 엄격한 사회 정세에 처해 있는 일본에 있어서 우리들에게 남겨진 평화를 어린이들의 세대에 이어가기 위해서 아시아에 있어서의 국제적인 관계나 국제공헌이라고 하는 여러가지 의식을 우리들 시민 한사람 한사람이 가지지 않으면 안된다. 세계의 안정과 평화에 기여하는 운동을 하는 JC이야말로 이 나라에 있어서 최고의 가치이며, 자원이라고도 할 수 있는 「사람」의 육성에 힘쓰지 않으면 안된다. 그런 각각의 사람 사이에서 행하여지는 긴밀하고 다원적인 민간외교만이 앞으로의 국제사회에 있어서 상호발전과 연결되고 서로의 차이를 존중할 수 있는 참된 국제인을 육성할 수 있으며, 그러한 것들이 요구되고 있다.

【지역 아이덴티티의 확립을 향해】

JC는 국가나 지역의 아이덴티티 확립을 위해서 시간을 많이 투입해 왔다. 이 도시에 사는 사람들이나 미래를 짊어지는 어린이들에게 지역에 대한 애향심을 조성시켜서 도시의 발전을 위해서 최선을 다하는 마음을 육성하려고 한다면, 우선 우리들 자신이 이 도시의 대표라는 것을 자각해야 한다. 개인 한 사람이 그 지역의 대표라고 하는 의식은 이 도시의 대표이며, 이 도시의 대표는 이 나라의 대표라는 의식과 연결된다. 그 의식을 알게 되는 기회는 우리들의 가까운 곳에 있고, 또 그 탐구나 연구에 노력하는 것은 우리들이 가장 잘 할수 있는 것이다.

【환경의식을 향상시키기 위해서】

현재, 이상기상이 초래하는 재해는 우리들의 장래를 위협하는 지구환경전체의 문제다. 키타큐슈는 세계의 환경수도로서 지속가능한 사회를 목표로 하고 산학관민이 일체가 된 운동을 해 왔다. 세계의 환경수도의 시민으로서의 운동은 공해극복의 역사에서 인류의 생명의 귀중함을 배운 키타큐슈 시민의 「공적인 정신」이라고 하는 중요한 정신성을 토대로 실시해 온 것이며, 지금이야말로 지구상에서 사는 모든 사람들을 위해서가 아니면 안된다. 환경수도 시민으로서의 자랑이 지구상에 사는 전인류 공유의 자랑이 될 만한 키타큐슈 JC의 정열에서 출발하는 운동을 추진하자.

【전국회원대회의 성공을 향해】

우리들은 전국회원대회주관이라고 하는 과거 최대의 호기를 맞이하며, 우리 도시의 새로운 가능성의 문을 여는 역사적인 순간을 맞이했다. 키타큐슈의 비전이나 이념을 명확하게 하고 대회의 준비나 개최에 이르기까지의 프로세스를 많은 시민이나 동료들과 함께 해서 그 관계성을 강고한 것으로 해야 한다. 이 대회에 있어서의 우리들의 사회적 역할을 인식하고 여러가지 관계 단체와의 연계를 계속 유지해서 최종 준비년도로서의 역할을 다 해 나가자. 전국회원 대회주관은 바로 JC 운동자체이며 운동의 축도이다. 이 도시의 미래를 지켜보는 대회를 성공적으로 유도하기 위해서도 LOM이 하나가 된 운동을 추진하자.

【끝으로】

이 나라의 문화나 전통에는 인간과 자연과의 조화를 요구하며, 그 조화에 동경을 갖고 표현하고 있는 것들이 많이 있다. 자연이라고 하는 모든 환경으로 구성된 사회에 대한 공헌은 선조들이 남겨 준 중요한 메시지다. 우리들은 이 도시에서 태어난 청년으로서 우리들과 사회와의 사이에 무수하게 둘러쌓인 관계성이 이 도시의 사회를 구성하고 있다는 것을 자각하지 않으면 안된다. 즉, 모든 환경을 연결시키는 것은 우리들 자신이며, 우리들의 삶의 태도나 사고방식이 결과적으로 누군가의 환경에 영향을 주는 것을 우리들은 결코 잊어서는 안될 것이다.

MESSAGE

JCI（国際青年会議所）
会　頭
原田　憲太郎

社団法人北九州青年会議所のメンバーの皆様方には、平素よりJCI運動への深いご理解と献身を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。世界20万人のメンバーを代表して心より御礼を申し上げます。

2011年度は「明日に架ける橋 ～あなたの可能性が北九州を創る～」をスローガンに、北九州の更なる発展を目指し、まちの将来を担う若いリーダーの育成に邁進されると伺っております。永田康浩理事長とは昨年、公益社団法人日本青年会議所の事業でご一緒させていただきましたが、その卓越したリーダーシップと魅力溢れる人間力で、メンバーを率い、地域を明るい未来へと導かれることと確信いたしております。

本年JCIとして掲げております「人間の世紀・市民主導の時代」の確立を実現させるために、世界に約5,000ある各地青年会議所の模範となって活動くださいますようお願い申し上げて、JCI会頭としてのご挨拶に代えさせていただきます。皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げております。

公益社団法人
日本青年会議所
会　頭
福井　正興

平素は公益社団法人日本青年会議所に格別なる御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

社団法人北九州青年会議所の皆様が、永田康浩理事長の卓越したリーダーシップのもと、『明日に架ける橋 ～あなたの可能性が北九州を創る～』をスローガンに、日々明るい豊かな社会の実現に向け果敢に挑戦し続け、JC運動に邁進されておられることに心からの敬意を表します。

2011年度公益社団法人日本青年会議所は、進取の精神とクオリアの追求による「尊敬される日本」の創造に向け、10年後を見据えた、新たなる一歩を踏み出そうとしています。過去にとらわれ過ぎず、視野を広げて物事を見る大局観を持ち、常に進取の精神により新たなる飛躍へ向けて物事に果敢に挑戦することでLOMの皆様とともに地域と日本を元気にしたいと考えます。

世界から「尊敬される日本」を創るのは、考えを常に行動に移し挑戦をし続ける私たち青年しかいないと私は確信しております。新たなる飛躍へ向けてともに歩みましょう。

北九州市
市　長
北橋　健治

社団法人北九州青年会議所の皆様には、「わっしょい百万夏まつり」での「北九州ひまわり1万本プロジェクト」の実施や「北九州ドリームサミット」などの活動を通して、本市の活性化にお力添えをいただいており、厚くお礼申し上げます。

本市は、「世界の環境首都」と「アジアの技術首都」を掲げて、地球温暖化問題の解決、都市活力の増大、アジアの発展交流に取り組んでいます。こうした取り組みは、中国の習近平国家副主席の訪問を受けるなど、国内外から高い評価を得ております。

今後、この取り組みを着実に前進させ、具体的な成果を出していくためには、若者の情熱と行動力が欠かせません。北九州青年会議所の皆様のさらなるお力添えを期待します。

2012年に北九州市で開催が予定されている「日本青年会議所全国会員大会」が近づいてきました。この大会は、本市の素晴らしさを知っていただく絶好の機会と考えています。大会の成功に向けて、手を取り合って一緒に頑張っていきましょう。

北九州商工会議所
会　頭
利島　康司

社団法人北九州青年会議所の皆様が、若い力と斬新な発想で北九州市の活性化に努力されていることに心から敬意を表します。

北九州市の歴史は、ともすると日本の近代化と戦後の高度成長を支えてきたという産業経済面の歴史が強調されますが、その裏には多様な業種、様々な規模の企業団体が互いに協力し合い有機的に結びついてきた歴史があったことを忘れてはなりません。それは産学官民という言葉で象徴される市を挙げての協力態勢です。公害克服のために婦人グループが立ちあがり、大学、行政、地域、企業が呼応して大きな運動に発展し、北九州青年会議所も最前線で活躍されたことは記憶に新しいところです。

北九州の宝ともいえるそうした全員参加の協力体制を今こそ再構築するときではないでしょうか。そして新しい魅力的な北九州市を全国に、全世界に発信したいものです。

北九州青年会議所は2010年、「原点への回帰」を合言葉に北九州の可能性を信じようと呼びかけられ、2011年はさらに「明日に架ける橋 ～あなたの可能性が北九州を創る～」をスローガンにされています。まさに北九州挙げてのスクラム構築にふさわしい運動方針です。北九州青年会議所が、賑わいと活力に満ちた魅力的な北九州市の実現に大いに貢献されること期待いたします。

明日に架ける橋

－あなたの可能性が北九州を創る－

KITAKYUSHU 2011

2011年度 組織図

- 総会
  - 監事
    - 石川 利彦
    - 内川 英樹
    - 藤上 良裕
- 理事会
- 常任理事会
  - 直前理事長 小野 卓爾
  - 理事長 永田 康浩
    - 専務理事 角田 周一
      - 常務理事 東原 文久
        - 事務局 山田 康一朗
        - 情報発信戦略委員会 村田 仁志
      - 総務室 平野 真一郎
        - 総務委員会 戸町 志穂
        - 例会委員会 松田 健一郎
      - 総務室 副室長 組織変革推進会議 議長 安東 崇夫
    - 副理事長 小田 剛
      - JAYCEEの資質醸成室 立川 雄一
        - JAYCEE拡大委員会 山賀 英生
        - JAYCEE確立委員会 泉 尚人
      - JAYCEEの資質醸成室 副室長 会員拡大推進会議 議長 許斐 智夫
    - 副理事長 末松 雅之
      - アカデミー室 中野 智実
        - アカデミー第1委員会 宮熊 伸一
        - アカデミー第2委員会 花田 英孝
    - 副理事長 有江 大輔
      - 真の国際人育成室 小嶋 亮
        - 国際交流委員会 桑島 清太郎
        - 台北交流委員会 阿納 勉
    - 副理事長 加来 典崇
      - 北九州の可能性開発室 藤本 知秀
        - エコアクション実践委員会 髙橋 雅彦
        - 魅力連携実践委員会 髙藤 章雄
      - 北九州の未来開発室 矢野 晶照
        - KDS実行委員会 吉田 幸正
    - 副理事長 全国会員大会理事戦略会議 議長 前田 一
      - 全国会員大会準備室 木村 哲也
        - 全国会員大会準備第1委員会 松井 聡
        - 全国会員大会準備第2委員会 山下 浩毅
        - 全国会員大会準備第3委員会 濱根 宗司
      - 全国会員大会準備室 副室長 全国会員大会理事戦略会議 副議長 岡本 興大
  - 議案審査会議
  - 会員拡大推進会議
  - 組織変革推進会議
  - 全国会員大会理事戦略会議
- 日本JC委員長 小田 剛
- 日本JC副議長 末松 雅之
- 九州地区委員長 岡本 興大
- 出向理事 日本JC副委員長 兒玉 雄太
- 出向理事 ブロック役員 豊川 智彰

JCI™

2010年度 事業報告

2010-2011 ANNUAL REPORT

原点への回帰
We Believe!!
KITAKYUSHU/2010

社団法人 北九州青年会議所
Junior Chamber International Kitakyushu

2010年度 理事長所感

原点への回帰 We Believe!!

2010年度 社団法人北九州青年会議所（以下、北九州JC）は、『原点への回帰～ We Believe ～』をスローガンに、発進しました。多くの皆様方のご支援とご協力によって無事に終えることができました。私は、「私たちは一体なんのためにこの組織に集い、誰のために運動をしているのかという根本的な所をもう一度会員全員に再認識してもらうことこそが、北九州JCの存在価値を自らが再認識し、未来の北九州を創造する」ことにつながるという信念のもと4つの基本方針のもと運動を展開しました。以下2010年度の所感を基本方針ごとに記すことにします。

社団法人北九州青年会議所 第58代理事長　**小野 卓爾**

公の精神を育もう

これまで58年間脈々と続いてきた北九州JCの運動の根本である「奉仕」を一度再確認すると共にこの北九州市に根づいていた精神性「公の精神」深く追求していきました。「JCNEWS」は、私たちが運動の原点とした公の精神を、会員のみならず「Zutto北九州（ズッきた）JCNEWS拡大版」の発行によって広く一般市民に発信することができました。また、今年作成したJCメンバー向けのプログラム「JAYCEE進化論プログラム」は入会の期間の浅いメンバーのみならず、すべてのJCメンバーがこの運動の基本である、この組織の真の目標とは何なのか、という根っこのところから気づかせてくれるすばらしいものになりました。このプログラムは次年度にも引き継がれるので今後とも大いに活用してもらいたいと思っています。事業では「わっしょい百万夏まつり」や「到津の森公園のイベント」を通じて市民、企業、行政を巻き込み北九州の精神性を我々の行動によって発信できたと思います。

自分の役割を自覚し何事にも挑戦しよう

どのような運動もその運動主体である人が「修練」し成長していかなければ、その運動は広がっていきません。そのために己を律し、各々が自分の役割を自覚し、地域の課題解決に向けて挑戦できる人材育成を行いました。各種事業への参加、講師例会、各種大会への参加そして多くの出向を通じ多くの学びを得たと考えています。何事にも果敢に挑戦する心を養うことで、数多くのメンバーが、何かを学ぼうとする気持ちを大切にして、新たな可能性を信じJC運動に取り組んでいく人材へと成長しました。

友情の輪を広げ世界平和を実現しよう

台北JCとの交流は41年目を迎え、第41回IFP事業も台北の地にて行いました。また富平JCとの交流は23年目を迎え、富平JCの創立40周年記念式典には、OBの先輩を始め多くのメンバーで出席しました。この長く続いた偉大な歴史こそが、それぞれのメンバー一人ひとりにとっての素晴らしく大いなる財産であることを確信しました。本年のおおきな収穫は、台北JCも富平JCも今までの交流から一歩を踏み出した新たな交流のあり方の必要性を感じているとの確認がとれたことです。我々は長い交流の歴史を通じてお互いを理解する機会を多く持ってきました。この「友情」を土台にして「JCの友情は国家の主権に優先する」という理念の下「畏友」としての新たなステップへ進化することが、民間外交の旗手としての我々の使命であり、世界恒久平和の実現への第一歩であると確信しました。

未来の北九州を創造しよう

2012年全国会員大会の準備の第1年目としてLOMにとっての開催理念を作り上げました。この理念は、“「世界の環境首都」を目指す北九州市民の皆様と共に社団法人北九州青年会議所はこの大会を通じて「明るい豊かな北九州の実現」に向けた運動を展開します。”という我々のえがく北九州市の未来ビジョンであります。これを通じて「公の精神あふれる市民」であふれるまち北九州をつくることが我々の今後の運動に必要であることがメンバーに再認識されたと思います。このビジョンに向かって「KDS2010」「ひまわり1万本プロジェクト」「九州環境モデル都市JCサミット2010」「近代化産業発信プロジェクト」を行いました。それぞれの事業を通じて市民、行政、企業を巻き込み「夢をかたち」にするビジョンを発信することが概ね出来ました。ただ残念だったのが、「近代化産業発信プロジェクト」において成果をかたちにするまでには至らなかったことです。本年地域にまいた種をぜひ育てていっていただきたいと思います。

結びに

1年間色々なことがありましたが、北九州JCの原点をもう一度見つめ直し再認識することで、私たちの存在意義をしっかりと考えることができた年であったと思います。この厳しい時代JC運動に参加するということは、自分の会社や家族を多少なりとも犠牲にしながら行っていくことになります。我々の運動が理想に向かって全く進まなければ、その犠牲が全くの無駄になってしまうということをよくよく心に留めて行動しなければなりません。だからこそ、我がまちにとって必要とされる団体であり続ける努力を惜しまず運動し続けようと思います。最後に多くの皆様に支えられて2010年の運動を行うことができましたことをこの場をお借りして心から感謝申し上げ理事長所感といたします。本当にありがとうございました。

公益社団法人 日本青年会議所
2012年度 第61回 全国会員大会
北九州大会 成功に向けて

夢をカタチに、心はひとつ！

社団法人北九州青年会議所（以下、北九州JC）は、2007年から3年間の誘致運動が実を結び、
2009年10月、沖縄那覇の地で「公益社団法人日本青年会議所（以下、日本JC）2012年度 第61回 全国会員大会」の主管LOMに決定いたしました。
そして2010年、大会の成功に向け様々な準備活動を行ってきました。

PR風景（2010.3.16 日本JC 九州地区協議会 会長訪問例会懇親会）

日本JC全国会員大会運営会議のみなさま（2010.3.27 現地調査）

全国大会戦略会議の開催

全国会員大会を成功に導くために月に一度、常任理事以上を対象にした「全国大会戦略会議」を開催いたしました。毎回、戦略的かつ効果的な大会構築のための活発な意見交換や議論を重ね、12月度の会議では、記念事業などを構築する上で基盤となる「LOM開催理念」を取りまとめました。

全国大会連絡協議会の設置・開催

誘致の段階から充実したバックアップをいただいた行政や関係諸団体との更なる連携をはかるため、2月に各部局・団体の現場担当者を中心にした「全国大会連絡協議会」を設置し開催いたしました。

2010年度福岡ブロック副主管締結

10月18日「日本JC第61回 全国会員大会 北九州大会 2010年度福岡ブロック副主管締結式」が開催されました。式は福岡ブロック協議会主導のもと執り行われ、県内20会員会議所の理事長様より副主管協力に向けた締結文書への調印を頂きました。

副主管協力とは、北九州大会における大会への参加登録やブース出展、日本JC本会への出向者の輩出や各種大会への積極的な参加など、大会成功に向けた様々なご協力をお願いするものです。この副主管締結により、本大会が北九州だけの大会ではなく、県内20会員会議所メンバー 1600余名と連携し、それぞれの地域の活性化にも寄与する大会として大きな一歩を踏み出しました。

ブログでの情報発信

全国会員大会の準備状況や活動報告をリアルタイムに発信するため、ブログ「北九州大会に向けて」を公開し更新を重ねてきました。このブログは2011年度も引き続き更新し、情報を発信して行きます。

http://ameblo.jp/jc2012/

日本JC全国会員大会とは

日本JCが主催する全国会員大会とは、年に1度必ず開催され、日本JC会員約4万人のうち、およそ2万人が開催地に集うJC運動最大規模の事業です。1953年の第1回名古屋大会以降、毎年途切れることなく全国各地で開催されています。

この大会は一年間のJC運動の集大成としてその活動を発信する場であり、会員の意識の昂揚を図ると同時に、JC運動における普遍の理念である「地域の活性化」「市民意識の変革」の実現、また大会を通じて世論を確実に動かし、社会全体にポジティブな変化を巻き起こすことを目的として開催されています。そしてその根底には、各地域において市民とともに展開する運動があり、それが明るい豊かな社会の実現へと繋がっているのです。

2010年は神奈川県小田原市と箱根市を中心に開催され、その大会で2013年度の開催地に奈良県奈良市が決定しました。また、2011年には愛知県名古屋市で開催されることが決定しています。

全国から集うJC会員に対し、北九州の魅力を最大限に伝えるだけでなく、わがまちが日本中から注目されるようなビジョンを発信できるのが全国会員大会です。また、大会に際して行われる様々な記念事業を通じ、さらなる北九州の活性化に繋がっていくことでしょう。

無限の可能性を秘めた、日本JC2012年度第61回全国会員大会北九州大会に是非ご期待ください。

また多くの皆様のご支援ご協力の程をお願いいたします。

北九州大会4日間スケジュール案
2012年10月11日（木）～10月14日（日）

1	大会成功祈願	09:00 ～ 09:30	足立山妙見宮
	県表敬訪問	11:30 ～ 12:00	福岡県庁
	市表敬訪問	14:00 ～ 14:30	北九州市役所
	会頭記者会見	14:45 ～ 15:15	北九州市役所
	開会式	17:00 ～ 18:00	北九州イノベーションギャラリー
	ウェルカムレセプション	18:00 ～ 19:30	北九州イノベーションギャラリー
2	理事会・ブロック会長会議	09:00 ～ 12:00	リーガロイヤルホテル小倉
	日本JC各委員会	09:00 ～ 15:00	市内各所
	総会	13:00 ～ 16:00	北九州芸術劇場 大ホール
	大懇親会	18:00 ～ 20:00	勝山公園 大芝生広場
	シニアクラブ諸会議	13:00 ～ 18:00	ステーションホテル小倉
	シニアクラブ懇親会	18:30 ～ 20:30	ステーションホテル小倉
3	アワードセレモニー	09:00 ～ 10:30	北九州ソレイユホール
	メインフォーラム	11:00 ～ 13:00	北九州ソレイユホール
	各種セミナー	13:30 ～ 17:00	市内各所
	宮様歓迎レセプション	15:00 ～ 16:30	リーガロイヤルホテル小倉
	歴代会頭会議	16:30 ～ 17:00	リーガロイヤルホテル小倉
	2013年度 理事長予定者ミーティング	18:00 ～ 20:30	北九州芸術劇場 大ホール
	2013年度 専務理事予定者セミナー	18:00 ～ 20:30	北九州芸術劇場 中劇場
4	大会式典	09:00 ～ 11:00	北九州メディアドーム
	卒業式	11:00 ～ 12:00	北九州メディアドーム
	閉会式	13:30 ～ 14:30	リーガロイヤルホテル小倉
	宮様晩餐会	17:00 ～ 18:30	千草ホテル

スケジュール案は2010年12月現在のもので、より良い全国会員大会開催のため変更が生じる可能性がございます。ご了承ください。

新年例会・祝賀会 January 1

1月15日（金）リーガロイヤルホテル小倉にて、新年例会・祝賀会を開催いたしました。新年例会では小野理事長から挨拶があり、メンバー一同新たな決意のもと新しい第一歩を踏み出しました。

また、新年祝賀会ではご来賓・JC関係・OBの方々と現役メンバー合わせて400名以上が来場し、小野理事長より力強い所信表明があり「原点への回帰～We Believe～」という2010年度の方向性を発信いたしました。また、新役員の紹介、2012年度全国会員大会に向けてのPR、会員拡大のPRなど、新たな船出にふさわしい盛大な祝賀会となりました。

2月度例会【講師例会】 February 2

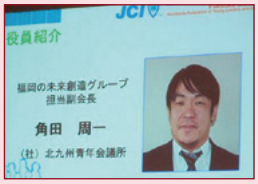
2月9日（火）ホテルニュータガワにて、2月度例会を開催いたしました。日本JCの説得力あるJAYCEE確立委員会の皆様を講師に招き、「真の日本男児育成プログラム」セミナーを行いました。

「知行合一」を実践的な生き方の規範とした「真の日本男児」について学びました。日本人としての誇りと自覚を持ち、子どもたちに誇りを伝えることのできる「大人の背中」、JCメンバーとして、いかに行動するかを考えさせられました。このセミナーをいち早く例会で行う事によって、北九州JCメンバー全員が、2010年度の日本JCの方向性をいち早く理解する事ができました。

3月度例会【第一エリア合同例会】 March 3

3月11日（木）行橋市の京都ホテルにて、（社）美夜古青年会議所主管のもと（社）日本青年会議所 九州地区 福岡ブロック協議会 第一エリア合同例会～福岡ブロック協議会 会長公式訪問例会が開催されました。ブロックアワーでは2010年度のブロック協議会の方向性や事業説明が行われ、意識の統一をすることができました。

また、懇親会ではLOM間の垣根を越え親交を深め、PRタイムではそれぞれのLOMの事業内容等を知ることで新たな気づきを得ました。また、2012年度の全国会員大会に向けてのキャラバンでは、合言葉「夢をカタチに心はひとつ」のシュプレヒコールをブロックメンバー全員で行い第一エリアの結束を確認することができました。



4月度例会【国際例会】 April 4

4月9日（金）リーガロイヤルホテル小倉にて、台北市國際青年商會（以下、台北JC）メンバーをオブザーブに迎え4月度例会を開催いたしました。台北JCのPRタイムでは、会長 潘熾弘君から台北JCの事業紹介ならびに2010年度の組織や事業内容の説明、そして誘致運動を行っていた2012年度JCI世界会議（11月に主管決定）に対する熱い思いを伝えて頂きました。また、北九州JCのPRタイムでは、アカデミー第1委員会・未来創造委員会・全国大会準備委員会の3委員会がPRを行いました。

初めて台北JCメンバーを迎え入れての例会開催で、多くのメンバーが台北JCとの「友情」を再確認し、世界平和の実現に向けての国際的視野を広げる非常に貴重な機会となりました。

5月度例会【講師例会】 May 5

5月10日（月）北九州市立商工貿易会館2階多目的ホールにて、5月度例会を開催いたしました。講師に元・佐伯市観光大使の矢野大和氏を迎え、『笑って元気！まちづくりはひとづくりから』をテーマに、「まちづくり」の本質や人と人とのコミュニケーションの大切さについてご講演をいただきました。

矢野氏の大分弁を交えた口調に皆引き込まれ、「まちづくり」を行うには、まず「人間関係の構築」が必要であることを強く私たちに訴えかけられました。この講演で、私たちは何を行っていかなければならないのかという「気づき」を与えて頂く機会となりました。

6月度例会【会員拡大例会】 June 6

6月9日（水）リーガロイヤルホテル小倉にて、多数の仮入会の方々にご参加頂き会員拡大例会として6月度例会を開催いたしました。会員拡大タイムでは、日本JCプロモーション映像の上映後、講師としてお招きした日本JC第57代会頭であり、旅館業の名店とされる（株）加賀屋の現副社長である小田與之彦先輩に御講話頂き、JCの魅力を存分にお伝え頂きました。さらに、各委員会の副委員長と会員拡大委員会のメンバーが仮入会者の入会に向け登壇し挨拶をしました。

この例会を通じ仮入会者の方々へ北九州JCの活動と魅力を発信すると共に、メンバーに対し会員拡大を促進する貴重な機会となりました。

例報

7月度例会【ALL JC DAY 2010】 July 7

7月3日（土）北九州国際会議場にて、北九州JCの創立記念日にあわせALL JC DAY 2010と7月度例会を同時開催し、北橋市長、小嶋一碩北九州JCシニアクラブ代表世話人をはじめ、多くの歴代理事長、諸先輩方にご出席頂き盛大な催しとなりました。式典・伝承アワーでは「まつり北九州」立ち上げ時、活躍された瀧口義昭先輩、「わっしょい百万夏まつり」の初代実行委員長を務められた手島賢先輩をパネラーにお迎えし、当時の思いや苦労話と共にメンバーへ熱いエールを送って頂きました。

また懇親会では、諸先輩方と親交を深め、北九州の未来に思いを馳せる事ができました。この経験は全国会員大会を2012年に控えるメンバーにとって、大変有意義な時間となりました。

8月度例会【家族親睦例会】 August 8

8月9日（月）スペースワールドにて、8月度例会を開催いたしました。8月度は「家族親睦例会」として、メンバーのご家族にも例会に参加して頂きました。当日はあいにくの雨模様でしたが、ご家族連れのメンバーが多数来場し園内の様々なアトラクションを楽しんだ後に例会を開催、引き続き通常総会も行い、北九州JC2011年度理事長予定者として永田康浩君が満場一致で選出されました。

また、例会終了後の懇親会では、中華バイキングと盛大なキャラクターショーにより、メンバーのみならずご家族にも楽しんで頂きました。

9月度例会【公開講師例会】 September 9

9月9日（木）北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」にて、9月度例会を開催いたしました。講師にNPO法人ロシナンテス理事長の川原尚行氏をお招きし、市民の皆様にもご参加頂きました。川原氏は、外務省の職員を辞して単身スーダンへ渡り医療活動を開始、その後NPO法人ロシナンテスを立ち上げ、スーダンと日本を行き来しながら民間レベルでの医療活動を柱とした国際交流を行ってこられました。

今回の講演を通じてスーダンでの活動を肌で感じ取ることで、参加者全員が自身のことより他人のことを思いやる「利他の精神性」を再認識することができました。

10月度例会【講師例会】 October 10

10月8日（金）ホテルニュータガワにて、10月度例会を開催いたしました。10月度は講師例会として、日本JC第52代会頭の揚原安麿先輩をお迎えし、講演を行って頂きました。揚原先輩は2003年度 第52回 全国会員大会 福井大会を日本JCの会頭として成功に導かれた実績があり、その誘致活動から大会を終えるまでのエピソードや、真のJAYCEEとしての心構えを熱く語って頂きました。

今回の講演は私たち北九州JCにとって、2012年度の全国会員大会の成功に向けた貴重なアドバイス、そして何より心強いエールとなりました。

11月度例会【事業報告例会】 November 11

11月9日（火）ホテルクラウンパレス小倉にて、11月度例会を開催いたしました。11月度は事業報告例会として行い、事業報告タイムでは各委員会が2010年度に行ってきた事業内容やLOMの方向性を確認することができ、出席したメンバーが2010年度に向けてさらなる発展を目指していくきっかけとなりました。

また、事業報告タイムの前には臨時総会並びにJCIセネターズクラブ認証式が行われ、松尾孝治直前理事長、松永浩先輩、森浩明先輩、杉田英雄先輩の4名が認証を受けられました。

12月度例会【卒業例会】 December 12

12月15日（水）リーガロイヤルホテル小倉にて、12月度例会を「例会・卒業式・懇親会」の3部構成で開催いたしました。例会では小野理事長より4つの基本方針を掲げ一年間活動してきたメンバーへの総括の挨拶が行われ、卒業式では2010年度の卒業生一人ひとりに感謝状が授与されました。

懇親会では2011年度理事長予定者永田康浩君へのプレジデンシャルリースの伝達、卒業生のすばらしいパフォーマンスが行われ、大変盛り上がりました。続く褒賞授与式では一年間を通じて顕著な活動を行ったメンバー、委員会がそれぞれ褒賞を受賞しました。

【常務室】広報委員会

JCニュース拡大版「Zutto北九州」発行

北九州JCの展開する運動を関係諸団体・市民の皆様などへ幅広く認識して頂き、理解や協力を求めるとともに、市民一人ひとりの主体的かつ能動的な行動を喚起することを目的に、JCニュース拡大版「Zutto北九州」略して「ズッきた」を年3回発行いたしました。2009年度は対外情報誌として独立して発行していた「ズッきた」ですが、2010年度はJCニュース拡大版として北九州JCの事業報告等も掲載し、市内の施設や大学・商業施設等に配布しました。春号（4月）は、北九州出身のロックバンド「175R（イナゴライダー）」のボーカルSHOGOさんのインタビュー記事などを、夏号（7月）は、北九州出身のSHEENA（シーナ）さんがボーカルを務めるロックバンド「SHEENA & THE ROKKETS」の特集を、また秋号（10月）では、2010年よりJ2に昇格した、「ギラヴァンツ北九州」の特集を掲載しました。

【会員室】会員研修委員会

会員研修委員会 公開委員会

2月22日（月）北九州市立商工貿易会館CP601において、日本JC2012年度第61回全国会員大会北九州大会を控えた我々に何が必要なのか、その心構えと考え方を学ぶべく、第53代理事長 曽我部駿介先輩をお招きし、「これからの北九州JCに必要なものとは」をテーマにご講話を頂きました。予定人数を大幅に上回る69名のメンバーが参加し、「感謝の心を持って何事も行動しなさい。そして、何事にも自ら進んで経験しなさい。経験に勝る説得力はないのですから。」と我々の心に残る貴重なお言葉を頂きました。また、質疑応答の時間には会員研修委員会以外のメンバーからも積極的にご質問頂き非常に有意義な時間となりました。

真のリーダー創造セミナー2010 ～原点回帰編～

6月12日（土）北九州市立商工貿易会館CP201にて、宜野湾JC直前理事長の宮平君、中津JCの中島君の両トレーナーをお招きし、日本JC公認プログラム「VF（ビジュアルフューチャー）セミナー」を開催いたしました。セミナーでは、人生・JC・会社・家庭などあらゆる場面における目標・目的を明確にすることが、物事を進めていく上で大切であると教えて頂きました。このセミナーを通じ多くのメンバーが、様々な状況においても明確な目標・目的を定めて行動していた訳ではないという事を感じたのではないでしょうか。セミナーでは、自分の考えを図に表現する事に、少し戸惑うメンバーもいましたが、明確な目標・目的を見定める事が揺るぎない考えを身につけ、目的に向かって最短距離で進めるという事に気づいて頂けたのではないかと思います。

「原点回帰」特別講演会

9月12日（日）ホテルニュータガワにて、日本JC第58代会頭を務められた安里繁信直前会頭をお招きし『「原点回帰」特別講演会』を開催いたしました。総勢165名のメンバーが参加した講演では、JC運動の原点である「地域を愛する想い」が個人として大きな存在価値に繋がる事、そして、この多感な40歳までの時代にJAYCEEとしてどれだけ成長するかが今後の人生において非常に重要であるとお話し頂きました。安里直前会頭の熱意のこもった一語一句が、私たち参加者の心にしみわたるものでありました。参加したメンバーにとって今後の人生において前向きな変化を作り出すための第一歩に繋がる講演会に出来たのではないかと思います。

JAYCEE進化論プログラム

10月21日（木）・24日（日）・27日（水）・11月1日（月）の4日間、北九州市立商工貿易会館他にて、2010年度のLOMのテーマである「原点への回帰」に基づき、JAYCEEとしてどのように成長していけば良いかを共に考える「JAYCEE進化論プログラム」を開催し、延べ100名以上のメンバーが参加しました。メンバーからは「JCの目的や目標が理解できた」「自分を見つめ直すことができた」「リーダーとして成長することの大切さに気づいた」など多くの反響がありました。「このまちを明るい豊かな北九州にしたい」と言う先人たちの「利他の精神」は、現代を生きる我々にとっても、人としての温かさや厚みに繋がる大切なキーワードであり未来へ繋げていかなければならない想いであると考えます。

【全国大会準備室】全国大会準備委員会

2012年度第61回全国会員大会主管青年会議所（社）北九州青年会議所 現地調査・対話集会

3月27日（土）日本JC全国会員大会運営会議による、2012年度第61回全国会員大会主管青年会議所（社）北九州青年会議所 現地調査・対話集会が開催されました。桜の花が咲く中、まず北九州市内各所において予定会場の現地調査が行われ、各委員会メンバーは、担当会場にてお出迎えをいたしました。その後、北九州八幡ロイヤルホテルで行われた対話集会では、北橋健治北九州市長、北九州JCセネターズクラブ会長富澤善和先輩をはじめとする北九州JCのOBの皆様、九州地区協議会の浦克稔会長、福岡ブロック協議会の金光功会長をはじめとする地区協議会、ブロック協議会役員の皆様、そして各地会員会議所の理事長をはじめとするメンバーの皆様も応援に駆けつけてくださり、共に一丸となって準備活動に取り組んでいる姿をアピールすることができました。また、開催理念を中心に行われた質疑応答では、北九州JC理事構成メンバーの丁寧かつ自信に溢れた回答により、全国会員大会開催にかける意気込みを充分に伝えることができました。その後、合同懇親会も行われ、北九州JCメンバーの開催に向けた気概とおもてなしの心によって、大変有意義な現地調査・対話集会となりました。

北九州ビジョン意見交換会

7月12日（月）～16日（金）の5日間に亘り北九州JC事務局にて、「北九州のビジョンをみんなで語り合おう」をテーマとして『北九州ビジョン意見交換会』を開催いたしました。このまちの「誇れる点・問題点」を踏まえながら、「明るい豊かな北九州」になるためには「どんなまちになれば良いのか?」また、JC活動を通じて「どのようにまちづくりに関っていけるのか?」を、メンバー一人ひとりに主体的かつ具体的なイメージをもって考えてもらうことを目的として行いました。ディスカッション形式で行われたこの意見交換会では、役職や委員会の垣根を越えた和やかな雰囲気の中、積極的な意見が飛び交い、たいへん有意義な時間となりました。今回の『北九州ビジョン意見交換会』が、2012年度の「第61回全国会員大会北九州大会」の成功に向けて、記念事業やLOM事業構築の一助となり、北九州のまちづくりがさらに加速していくものと信じております。

【国際室】国際交流委員会

仁川富平青年会議所北九州公式訪問

7月2日（金）～4日（日）の3日間、北九州市内にて、仁川富平青年会議所（以下、仁川富平JC）北九州公式訪問が開催されました。日程中、企業訪問やエコタウン見学、寿司づくり体験などを通じて日本の文化に触れて頂き、ウェルカムパーティーやフェアウェルパーティーで多くの北九州JCメンバーと言葉や国境の壁を越えた交流を図って頂いたことで、両JCの一層の友情を深めることができたと確信しています。振り返れば、反省点も多くありましたが、その経験を今後の国際事業に活かせるように邁進して参ります。

北九州JC仁川富平公式訪問

11月19日（金）～20日（日）の3日間、姉妹JCである仁川富平JCへの公式訪問が開催されました。2010年度は仁川富平JC創立40周年ということで、22年前に姉妹締結した当時の第36代理事長である手島賢先輩をはじめ多くのOBの先輩方との式典参加となりました。例年ではなかなか交流する事が出来なかった仁川富平JCのOBメンバーとも深く交流を図ることが出来、22年にもおよぶ交流の歴史と友情の深さを改めて感じることが出来ました。また、式典参加や懇親会だけでなく、仁川市庁舎への訪問や朝鮮戦争歴史資料館の見学など、今まで深く理解していなかった韓国の歴史や文化に対する見識をより深めることが出来たと感じています。言葉や文化が違う仁川富平JCメンバーと、それを超越して友情を深めることが出来、気付きと刺激を受けて大変充実した3日間となりました。

【国際室】台北交流委員会

台北市國際青年商會 北九州公式訪問

4月9日（金）～11日（日）の3日間、姉妹JCである台北市國際青年商會（以下、台北JC）潘会長始め9名のメンバーが北九州に公式訪問されました。北九州JCと台北JCは姉妹締結を行い今年で40年という長い国際交流の歴史があります。今回の公式訪問では、台北JCメンバー到着後、まずは新日鉄を見学し、鉄の街・北九州の歴史を学んで頂きました。同日、北九州JC4月度例会に台北JCメンバーも参加して頂き、お互いのJC運動の歴史や事業活動の紹介があり、その後ウェルカムパーティが行われ、より相互理解を深めることができました。翌日10日は北九州食のブランドのひとつである合馬の筍掘りの体験や、若松区の旧古河鉱業若松ビルでシスター会議を開催し、IFP児童交換事業・大阪世界会議について話し合いを行い、ボーリング大会・フェアウェルパーティと、多くの北九州メンバーと交流を楽しんで頂けました。今回の公式訪問はとてもハードなスケジュールでしたが、両国のメンバー同士がより密接に交流する機会が多く、お互いを理解し尊重し合うことができ畏友となれる公式訪問になりました。

北九州JC台北公式訪問

6月25日（金）～27日（日）の3日間、小野理事長をはじめ、18名のメンバーで台北JCへ公式訪問を行いました。台北JCメンバーとの2ヶ月振りの再会では、一人ひとり「レイ」を首に掛け歓迎され、三日間はスタートしました。その後、台北JC事務局でシスター会議が行われ、8月に行われますIFP事業について熱い議論を交わしました。夜には盛大なウェルカムパーティーが開催され、100名を超える台北JCメンバーに、心から歓迎して頂きました。2日目は、早朝から烏來（ウーライ）というタイヤル族の里を訪ねました。夜のフェアウェルパーティーでは、宴が進むにつれて、メンバー同士の交流に益々拍車がかかり、誰もが本当の兄弟のように親しくなっていました。いよいよ最終日、小龍包で有名な県泰豊にてお別れの宴を催して頂きました。空港では、8月のIFP事業での再会を約束し、私たちは北九州への帰途につきました。参加したメンバーが笑顔を絶やすこと無く心に残る交流が出来たのも、両JCの長い歴史の賜物に他なりません。今回の訪問に携わられた両JCの現役・OBの全メンバーに深く感謝致します。

第41回IFP児童交換事業

8月14日（土）～19日（木）台北の地にて、第41回IFP事業が行われました。14日、福岡空港で結団式を終え、いざ出国の場面では、不安と寂しさからか泣いている児童もいました。台北に到着すると台北メンバーの温かい歓迎を受け、昼食会場で児童は初めての台北料理を食し歓喜の声を上げていました。昼食後、台北JC事務局で預け入れ家庭と児童たちの対面式をして各家庭へと向かいました。夕方からは歓迎会にIFP児童と共に参加しましたが、預け入れ家庭とも慣れてきたのか、すごく楽しそうに過ごす児童たちを見て安心しました。15・16日、児童は各受け入れ家庭での対応で買い物や観光地へ行ったり、台北の家庭料理などを口にして、日本との文化の違いや台北の生活、習慣、歴史などを学べたと大変喜んでいました。17日には、台北JC事務局で、北九州より持って行った向日葵の種植えや皮細工を行い、児童同士とても仲良く事業に取り組む姿が印象的でした。昼食後は水悟空という台北で有名なプールへ行き、そこで大人も児童も一緒に大はしゃぎ。言葉の壁や年齢も関係無しに仲良く楽しく遊び、まさに国境と年の差を越えた交流が出来ました。そして台北最後の夜、お別れ会が行われ、IFP児童による出し物披露や一生懸命に練習した『朋友』をみんなで合唱し、終わりには別れを惜しみ泣く児童と預け入れ家庭もおり、その姿を見ていると感動し思わず貰い泣きするメンバーもいました。そして19日、IFP事業最終日、空港ではお互いの別れを惜しんで泣いたり、再会を誓ったりする姿を目の当たりにし、ここでも貰い泣きをするとともに、友情が言葉や国家を超越することを感じ、改めてこの41年続くIFP事業の歴史と事業の素晴しさ、そしてなにより国際交流の大切さを学ぶ機会となりました。

【記念事業の夢連携室】広域連携開発委員会

九州環境モデル都市JCサミット2010

11月14日（日）北九州市環境ミュージアムにて、（社）水俣青年会議所との環境モデル都市の情報交換の場として、「九州環境モデル都市JCサミット2010」を開催いたしました。互いに連携し情報交換した事で今まで知らなかった水俣市の公害や環境の歴史、行政やLOMの活動内容を多く学ぶ事が出来、北九州JCにも取り入れる事の可能な事業も多々ありました。また、改めて北九州市の環境の歴史やLOMの歴史を深く学ぶ事が出来ました。開催後の参加者のアンケートでは、北九州市が環境モデル都市に選定された理由や環境モデル都市の意味が分かったとの回答が100%という数字になり、成果のあるサミットとなりました。今後は日本全国の環境モデル都市のLOMと連携して開催が出来れば、更なる知識と意識の向上を図れるのではと考えます。Yes, We. 環！

【アカデミー室】アカデミー第1委員会・アカデミー第2委員会

第25回「積木の箱」授与式

3月8日(月)ホテルクラウンパレス小倉にて、『公益信託北九州市青少年健全育成基金、第25回「積木の箱」授与式』が執り行われました。「積木の箱」とは1984年9月に九州では初めての公益信託として設立され、非行防止活動や補導活動に取り組んでいる個人・団体への活動資金の助成や顕彰を行うものです。今回で25回目を迎え、運営委員会の審議の結果、11団体へ助成が決定いたしました。授与式では、運営委員長である飯野一義歴代理事長の挨拶の後、NPO法人　北九州一日里親の会、八幡東警察署少年補導員連絡会、足立中学校区青少年育成連絡協議会、北九州自由高等学院、北九州ファミリーブラス　ひまわり、NPO法人　いじめ防止ネットワーク、桜ヶ丘スポーツ少年団剣道部、二島中学校区地域会議、小倉BBS会、聖小崎ホーム、到津の森ちからの会の代表者様方から活動内容についての紹介がありました。

到津の森公園 春のイベント

4月29日(木・祝)到津の森公園にて春のイベントを開催し、チャリティーバザー、動物サポーター募集、園内キャラバンを行いました。当日は、例年になく爽やかな陽気となり、多くの来園者で賑わいました。バザーはメンバーの協力により多くの品物が揃い、朝10時から15時までの間、多くの来園者やメンバーに購入されました。動物サポーター募集はゲート前で行い、27件を数える登録を頂くなど、キャラバン隊の園内PR運動の奮闘の汗が見事に報われる結果を残しました。来園者の方々に誠意を持ち対応したメンバーのおもてなしの心と振る舞いは、到津の森公園のPRへとつなげる事が出来、園内に公の精神が彩られた素晴らしき日でもありました。秋のイベントに向けてアカデミーメンバーの士気も高まり、さらにJC運動の魅力を理解してもらう良い機会となりました。

祇園太鼓像清掃 わっしょい街頭募金

7月10日(土)小倉駅前ペデストリアンデッキにて、祇園太鼓像清掃・周辺地域清掃・わっしょい街頭募金を行いました。歴史ある祇園太鼓像に敬意を込めて清掃し、街頭募金ではメンバーの熱い想いに応えて頂けた市民の方々に、多額の募金を頂く事が出来ました。アカデミー室主催の中、大勢のメンバーに参加頂き、わっしょい百万夏まつりに向け結束が更に深まったと感じる事業となりました。

わっしょい百万夏まつり

8月7日(土)・8日(日)小文字通り・勝山公園・市役所周辺等にて、北九州の夏の風物詩である「わっしょい百万夏まつり」が開催されました。事前準備や、メンバー同士の迅速な対応により、無事にトラブルもなく終了することができました。アカデミーメンバーは、鳴子を手に躍動感あふれる踊りをされた「YOSAKOI」の給水や警備、ウェルカムパレードの沿道警備、「夏まつり大集合」の山笠の誘導等、運営側に立って各イベントが安全かつスムーズに運営できるよう活動に励みました。特に「夏まつり大集合」での山笠付きスタッフの担いは、各祭りの「山笠を担ぐ苦しさ」「山笠を担ぐためのチームワーク」を間近で感じることが出来、今後のJC活動に役立つ貴重な経験となりました。

到津の森ちからまつり

9月26日(日)到津の森公園にて、『到津の森ちからまつり～Zooっと繋がる命と絆～』を開催しました。自然景観を生かし、地元の「ゆるキャラ」紹介イベントを芝生広場で開催。到津の森公園のキャラクター1体を含む計9体のキャラクターと、子どもたちをはじめ保護者の方々に、コミュニケーションやオリエンテーリングを通じて触れ合って頂きました。南ゲート大駐車場では、自衛隊の装甲車をはじめ多くの「働く車」を行政や企業の皆様に協力して頂き誘致することができました。「働く車」に直接乗ってもらったり、運転してもらったりして、多くの事柄を学んで頂こうと取り組んだこの企画。閉園間際まで順番待ちをしていた子どもたちが印象的でした。森の音楽堂では前年に引続き、仮面ライダーショーを行いました。ヒーローの登場と“ちからの会”会長のサプライズに来園者の方々の楽しげな声が響いていました。晴天を迎えたこの日、9月4週としては過去最大の来園者数約4,000人を記録し、反省点を残すも来園者の方々の笑顔の数を考えると、この事業は大成功だったのではないかと感じました。

アカデミー室卒業式

11月24日(水)ホテルニュータガワにて、「2010年度アカデミー室卒業式」を開催いたしました。準備段階から色々な課題がありましたが、アカデミーメンバーで何度も話し合い、当日は会場設営やアトラクションのリハーサルに励み、式典・懇親会とも大盛況で無事に終える事が出来ました。アカデミーメンバーが一丸となって取り組んだ事で、達成感と連帯感の向上へと繋がりました。

【記念事業の夢発信室】北九州の魅力発信委員会

「北九州市ふるさとかるた」お披露目かるた大会

2月20日(土)小倉城庭園にて北九州市にぎわいづくり懇話会主催の「北九州市ふるさとかるた」お披露目かるた大会が開催されました。この「北九州市ふるさとかるた」は、2007年度「北九州の魂(こころ)」推進委員会が行った「恋文俳句」から派生したものです。「恋文俳句」とは市民に北九州へのラブレターを書いてもらいたいという事業でした。当日は、当時の担当委員長であった石川副理事長が来賓の挨拶をされ、また当時の委員会メンバーの方たちは大会のお手伝いをされました。小学生対象のカルタ大会では、3人1組で高学年の部、低学年の部に別れ合計13チームにて行われました。多くの方々の応援のもと、子どもたちは十分な練習を積んできたことを感じさせるすばやい手つきで札に手をのばしていました。大会に参加した子どもたちは、かるた大会を通じて北九州の名物、名所そして歴史を学んでくれたと思います。大会を観戦し、また子どもたちの楽しそうな様子を見ていると来場された方々に北九州JCの事業が様々な形で伝わっていくことのすばらしさを感じました。

北九州市民時計

小倉魚町商店街の大型ビジョンにて一般市民の方をモデルにして定時を知らせる「北九州市民時計」を企画・制作し、その中でわがまちの世界遺産候補を紹介しました。北九州市民時計は当委員会事業「わがまちの誇りを世界の誇りへプロモーション」のひとつです。私たちは事業を通じて、わがまちにある世界遺産候補やこのまちを形作った先人達を市民の方たちに知ってもらいそして、わがまちに誇りをもって頂ければと考えております。

【記念事業の夢実践室】環境アクション実践委員会

北九州ソーシャルビジネスフォーラム

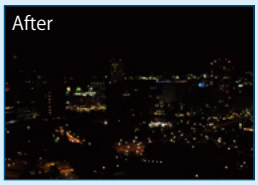
2月21日(日)北九州イノベーションギャラリーにて、『北九州ソーシャルビジネスフォーラム』が開催されました。環境アクション実践委員会も、社会問題の解決を目的とした事業に取り組む事業体の一つとして、環境ブースを出展させて頂きました。また、会員拡大委員会にも参加し、北九州JCが行っている様々な活動のPRを行いました。ブースに来られた市民の皆さまにアンケートの御協力を頂き、環境に対しての意識や取り組みなどを聞くことができました。明るい豊かな社会の実現に向けて今後の活動の参考になりました。会場では他に、基調講演・パネルディスカッションや各種団体によるブース出展が行われ、環境意識の高い多くの市民が参加されました。

北九州ひまわり1万本プロジェクト

8月7日(土)・8日(日)に開催された「わっしょい百万夏まつり」にて、市民サポーター皆さまのおかげを持ちまして6,000本以上のひまわりが会場である勝山公園に大集合し『わっしょいひまわり大集合』を開催する事が出来ました。ご協力頂いた全ての皆さま、誠にありがとうございました。これからも北九州市の市花である『ひまわり』を更に広げていく運動を行って参ります。

百万まつりでライトダウン2010

8月8日(日)に開催された「わっしょい百万夏まつり」の花火にて、「お祭りで花火が打ちあがる時間に電気を消灯し、よりきれいに花火を見よう」との呼びかけで今年もライトダウンを実施しました。事前登録で、ご賛同頂いたのが3,500世帯。世帯数以上に2年目としての成果を感じたのが、北九州市外の日本全国にお住まいの方からも登録を頂いた事です。これからも北九州市で発祥した環境を考えた取り組みが全国に広がり、北九州市民としての誇りがより一層高まっていく事を期待しています。



もったいないスクール2010

10月16日(土)、17日(日)『もったいないスクール2010』が、公益財団法人北九州活性化協議会もったいない総研実行委員会と共催し、開催されました。2日間にわたって、「ひまわり講演会」、「アースマンショー」、「環境ブース出展」を行いました。北九州の市花である「ひまわり」を今後のまちづくりにどのように活かしていけるのかを考える、大きなきっかけになる事業となりました。

【記念事業の夢創造室】未来創造委員会

北九州ドリームサミット(KDS)ファシリテーター勉強会

北九州ドリームサミット(以下、KDS)の開催に先立ち、4月2日(金)北九州市立商工貿易会館にて「ファシリテーター勉強会」を開催いたしました。当日は予定を上回るメンバーが集まり、前半は資料を用いたKDS全体の説明を行い厳粛な中にも笑いのあるとても充実したものとなりました。また、後半部分では有江監事によるファシリテーター養成講座が実施され、今までの経験を活かしたとても素晴らしい講座となりました。その際、メンバーの素晴らしい笑顔が大変印象に残りました。また参加者からは、今後の北九州JCの事業にも発展できるような、アイデアあふれる発表もあり、また、チーム編成を委員会の垣根を越えて行ったことで、メンバー間の交流も図れました。はじめて行った勉強会でしたが、非常に充実したものとなりました。

KDS2010継承会議

4月17日(土)北九州市立商工貿易会館2階多目的ホール(CP201)にて、「KDS2010継承会議」を開催いたしました。この継承会議は、過去の活動を知ってもらうことが最大の目的ではありますが、もう一つ大事なことは、他の学校の生徒たちを知ってもらい交流を深め、友情を育んでもらうことです。当日は北九州市内全中学校の代表生徒92名(中学2年生対象)、来賓者31名、北九州JCメンバー35名と多くの人に参加していただき大変盛り上がった会議となりました。会議では、過去5年間続くKDSの歴史を学び、自分たちの先輩方がどのような活動を行い今へ繋げてきたのか、それを継承していく上で自分たちが何を想い、どのような活動を行っていかなければならないのかを話し合いました。途中、生徒の緊張を解すためにパフォーマンス等を盛り込み、賑やかな会議となりました。

KDS2010個別活動 北九州空港ひまわりプロジェクト

6月27日(日)北九州空港ターミナルの隣接する土地にて、KDS議員の、北九州市の花である「ひまわり」が市の活性化につながってくれればという願いのもと、ひまわりの種約5千粒をまく「北九州空港ひまわりプロジェクト」を実施いたしました。断続的に雨が降り続く中、メンバーの熱い思いが届き、種をまく2時間の間だけ、雨がやむという奇跡がおきました。この企画は、小倉北B地区の提案で、KDSメンバーみんなに声を掛け、当日はKDS議員80人、北九州JCメンバー約20人が参加しました。泥だらけになりながら、長さ40m、幅3mの土地に種を一粒ずつ丁寧に埋めました。開花は9月初旬の予定で、種の収穫を行う計画です。また、これとは別に200鉢の植木鉢にも種をまき、開花した花は空港ターミナルに飾っていただきました。

KDS2010本会議

8月22日(日)北九州市議会棟本会議場にて、「KDS2010本会議」を開催いたしました。本会議では、4月から北九州市内各地区に分かれ、『環境』をテーマに行ってきた個別活動の活動報告と意見交換を行い、また、2010年度初めて行ったKDS議員全員での全体活動を2011年度も行うかどうかを議会形式にて採決し、全会一致で可決しました。多くの方々のご協力により、普段入ることのできない本会議場にて会議を行えたことは、参加した子どもたちにとって貴重な体験となりました。最初は、議会形式での会議とはどのようなものか不安があったと思いますが、会議終了後は自分たちの行った活動に対して自信を持ち、一人ひとりの顔つきが少し変わったようにも感じられました。

KDS2010発信会議

10月17日(日)北九州芸術劇場中劇場にて、「KDS2010発信会議」を開催いたしました。当日は、300名を超える来場があり大変盛り上がりのある有意義な会議となりました。この発信会議では、市内中学校の代表生徒(KDS議員約80名)が参加し、4月から10月まで自分たちの住む地域で、『環境』をテーマに活動した様々な活動成果の発表を行いました。様々な活動を通じて多くの人と出会い、触れ合い、沢山の経験をしてきたこの6ヶ月間であっただけに、達成感や人から感謝された時の気持ちを思い出し、楽しみながら生徒たちは発表を行っていました。発表の最後にご来場頂いた方々へ感謝の気持ちを込め、生徒全員が心を込めて育てたヒマワリの種を配り喜んで頂きました。この会議を通して、多くの方々にその想いを発信することが出来、また、その想いは引き継がれていくものだと実感しました。

公益社団法人 日本青年会議所 事業

※日本青年会議所は、7月1日に公益社団法人格の登記を行い、
社団法人日本青年会議所を解散し、公益社団法人日本青年会議所が設立されました。

2010年度 京都会議

1月21日(木)～24日(日)の3日間、京都の地にて「2010年度 京都会議」が開催されました。

23日にはメインフォーラムおよび各種セミナーが開催され、メインフォーラム『「世界に輝く日本」の創造へ!』では、日本JC第8代会頭 千玄室先輩により全国から集結したメンバーに向けての講演が行われました。翌日の24日には、第59代日本JC会頭 相澤弥一郎君による会頭所信が全国から集ったメンバーに力強く発信され、京都会議は幕を閉じました。

また、日本JCには、北九州JCからも多くのメンバーが出向しており、あらゆるところで活躍している姿を見ることができました。加えて100名を超えるメンバーが参加したこともあり、全国のJCメンバーに、大いに「北九州JCここに有り!」を示す事が出来た京都会議となりました。

2010年度 日本青年会議所 九州地区福岡ブロック協議会 会頭公式訪問

5月19日(水)ステーションホテル小倉にて、日本JC会頭 相澤弥一郎君の福岡ブロック協議会公式訪問が開催されました。

当日は、九州地区協議会の浦会長、福岡ブロック協議会の金光会長をはじめ、福岡ブロック内の多くのメンバーが集まり、また、開催地である北九州からも多くのメンバーが参加いたしました。会頭の講演では、日本JC会頭として各LOMに何ができるか、そして私たち一人ひとりが今何をしなければならないかなどをお話いただきました。講演後には懇親会も行われ、メンバー一人ひとりと名刺交換をされている相澤会頭の姿が印象的であり、北九州JCメンバーには全国会員大会に向けて力強い励ましの言葉をいただきました。

第29回全国城下町シンポジウム 津軽弘前大会

6月11日(金)～13日(日)青森県弘前市内にて、「第29回全国城下町シンポジウム」が開催され、12日の大交流会と13日のメインフォーラム、そして式典ならびに閉会式に参加しました。いずれも一般市民も参加可能な事業であり、アットホームな雰囲気が印象的でした。

北九州JCからは2名の参加でしたが、事業の内容や滞在中の食事、また、津軽三味線のライブなど東北の風土を十分満喫でき、非常に貴重な経験となりました。

サマーコンファレンス2010

7月23日(金)～25日(日)横浜の地にて、「時代を切り拓く! NEXT STAGEへ」というテーマのもと「サマーコンファレンス2010」が開催され、全国から約1万人のJCメンバーが集結しました。北九州JCが出展したブースでは北九州の歴史、精神性などを広く紹介しました。

また永田副理事長をはじめ、多数の北九州JCメンバーが出向する「説得力あるJAYCEE確立委員会」のセミナーでは、己を律することの大切さや説得力ある自分づくりの必要性について学び、出向者の活躍を間近で体感することができました。このサマーコンファレンス2010で得た多くの気づきをLOMに持ち帰り、今後の活動に転換していきたいと思います。

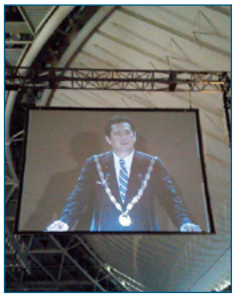
人間力大賞2010授賞式

9月18日(土)東京の表参道ヒルズにて、「人間力大賞2010授賞式」が開催されました。全国140名の応募の中から北九州JCが推薦しました谷口淑子様は『会頭特別賞』を受賞されました。紫川水上ステージでの「リバーサイドコンサート」などの継続的な音楽活動による地域社会への貢献が評価されてのことです。

なお、その他の受賞者の方々の結果につきましては人間力大賞公式ホームページに掲載されております。

第59回全国会員大会小田原・箱根大会

9月29日(水)～10月3日(日)小田原・箱根の地にて、「第59回全国会員大会小田原・箱根大会」が開催されました。「襷で繋げ!報徳の精神～天下の倹から708の陽はまた昇る～」という大会スローガンのもと、全国から約1万5千人のJCメンバーが集結し、ウェルカムレセプション、大会式典、卒業式などが行われました。



1日に行われた大懇親会では、福岡ブロック協議会全国大会準備支援委員会と共にブース出展し、北九州名物の焼きうどんを提供することで北九州のまちを広くPRすることが出来ました。また、大会式典では大会運営に関する実質的な動きを経験するのみならず、運営に携わる方々の熱い思いを間近で感じるまたとない機会となり、2012年度に全国会員大会に臨む私たち北九州JCにとって大きな学びの場となりました。

JCI 国際青年会議所 事業

2010 JCI ASPAC シンガポール大会

6月3日(木)～6日(日)シンガポールの地にて、「2010 JCI ASPAC(アジア太平洋会議)シンガポール大会」が開催され、北九州JCメンバー総勢24名で参加しました。

ジャパンナイトのブース出展では、北九州名物の堅パンを食してもらい、北九州を存分にアピールすることができたと同時に、腕相撲と形を変えたシェイクハンド(握手)をすることで、エリアB(アジア・太平洋地域)のJCメンバーと触れ合い、国境や言語を越えた国際交流を図ることができました。

第65回JCI世界会議 大阪大会

11月2日(火)～7日(日)大阪の地にて「JCI世界会議」が開催され、北九州JCメンバー64名が参加し世界各地のLOMメンバーと交流を深めました。

5日に行われたジャパンナイトでは北九州JCから焼きうどんブースを出展し、約500食分の焼きうどんを世界のメンバーに食して頂きました。予想以上の大盛況で配り始めて約2時間でなくなり、引き続き腕相撲大阪場所を開催しました。こちらも特に海外メンバーに大人気で、大成功にてブース出展を終わる事が出来ました。

また、期間中、総会やナショナルナイト、アワードにも参加し、JCIの組織や繋がりを学び、また、海外JCメンバーとの言葉の壁を越えた国際交流を実感することができました。最後に、5日の総会におきまして、姉妹JCである台北JCの2012年世界会議招致が決定いたしました事をご報告させて頂きます。

福岡ブロック協議会 事業

第28期アカデミー開校式

3月7日(日)飯塚市のがみプレジデントホテルにて(社)日本青年会議所 九州地区 福岡ブロック協議会「第28期アカデミー開校式」が開催されました。

開校式に先立ちNPO法人 師範塾塾長 占部 賢志氏による講演が行われました。明治維新の志士達に見る悪戦苦闘の生き方や戦後日本の桜の木の移植プロジェクト事業の軌跡などの話をまじえて、これから我々が果たすべき使命と課題について講演され、引き続きブロックアカデミー出発式、開校式の式典が行われました。

その後の懇親会では、二丈絆太鼓にはじまり、各アカデミー委員会によるアトラクションが行われ盛大な懇親会となりました。

入会3年未満で一度しか参加できないブロックアカデミーにおいて、この1年でしか出来ない、いろいろな事にチャレンジしていこうと実感した1日となりました。

第28期アカデミー閉校式

11月14日(日)柳川市御花にて、福岡ブロック協議会アカデミーグループにとって最後の事業となる「第28期アカデミー閉校式」が開催されました。

「真の友情」をテーマにフォーラムでは(社)奄美大島青年会議所 安永香織理事長からのビデオレター、第2部では株式会社はざま牧場代表取締役 間健二朗氏、宮崎ブロック協議会中原正暢会長をお迎えし口蹄疫問題についてディスカッションしました。

式典では福岡ブロック協議会の役員の皆様、21LOMの理事長の皆様、そして北九州JCメンバーの皆様に見守られながら、無事アカデミーメンバー達は卒業する事が出来ました。

大懇親会では福岡ブロック協議会 金光功会長から打ち上げ花火のプレゼントを頂き、記憶に残る閉校式となりました。

第38回福岡ブロック会員大会 in みい

5月23日(日)小郡市文化会館をメイン会場に「第38回福岡ブロック会員大会 in みい」が開催されました。このブロック会員大会は、福岡ブロック会員会議所メンバーとそのご家族が一同に会し、交流を深め、学びを得る場として毎年開催されている事業です。

今大会では、「笑顔でつくる　明るいふくおか」をテーマに、講演やミニライブの他、地域色を活かした多くのエクスカーションが催されました。

当日は、あいにくの天候にもかかわらず、多くのメンバー及びご家族の皆様にも大会に参画頂き、大いに大会を盛上げることができました。また、大懇親会においては、私たち北九州JCが2012年度第61回全国会員大会を主管する青年会議所として北九州JCの想いを発信するとともに、この大会を通じて大会の運営や、設営に伴うさまざまな困難や喜びを垣間見る良い機会となりました。

㈳北九州青年会議所 58年の歩み

1953 小倉青年会議所創立総会並びに発足式
1954 北九州五市青年会議所に改名
1957 第12回JCI世界会議参加(東京)
1959 小倉青年会議所に改名/祇園太鼓像除幕式
1960 JCニュース発行
1963 北九州市のもと北九州青年会議所に改名
第10回九州地区会員大会を主管
1966 外国JCとの義務教育教科書交換
1968 紫川浄化運動でJCIフィンランド賞
最優秀賞受賞
1970 社団法人北九州青年会議所創立
台北JCとの姉妹締結/
台北JCとの第1回児童交換事業(IFP)の開始
1973 わっしょい百万夏まつりの前身
第1回まつり北九州[ふるさと再発見]主催
1975 ウェラワッタJCとの姉妹締結調印式
1978 対外広報誌創刊号発刊
1979 スリランカより到津遊園へ2頭のメス子象贈呈
1980 財団法人北九州国際研修協会[KITA]設立
1981 第28回九州地区会員大会主管/仮入会制度発足
1982 「21世紀の北九州を考える」市民の集い開催
1983 30周年記念事業[積木の箱]設立・募金活動開始
1985 洋上スクール開催(新さくら丸)
1986 ピッツバーグに研修視察団を派遣
北九州活性化協議会設立に繋がる
1988 第1回[わっしょい百万夏まつり]
北仁川JC(現仁川富平JC)と姉妹JC締結
1992 JCI-ASPAC'92 KITAKYUSHU
(アジア太平洋地域会議)開催
1993 40周年記念事業[地球市民スクール]
1994 フィリピン・ナガ市へスクールバス寄贈のかけ橋
1995 阪神・淡路大震災に際して
[リフレッシュキャンプ]等支援活動
1996 グローバルハートサイズスクールでタイを訪問
「わくわくワークショップ全国交流会」開催
1997 各国代表のJCメンバーが集い
「国際アカデミーin北九州」開催
1998 到津動物園存続運動
映画「釣バカ日誌10」ロケ誘致
1999 フロー型社会からストック型社会へ
「エコエコ宣言」作成・発行
第1回「日本一キレイなまつり・まちを考える」
わっしょいキレイにし隊開催
2000 第29回福岡ブロック会員大会in北九州開催
2001 新北九州空港シンポジウム
2002 「到津の森公園」開園。動物サポーター支援
祇園太鼓像移設記念式典開催
2003 50周年記念事業　北九州未来予想図開催
50周年記念式典・祝賀会開催
提言書「NEXT50」作成
わっしょい百万夏まつりにて
「わっしょいYOSAKOI北九州」を開催
2004 長崎街道ウォーク開催
ブランド推進協議会発足
2005 第1回北九州ドリームサミット開催
日本海峡フォーラム開催
到津の夢・スマイルDAY開催
2006 洞海湾「海開き」開催
新九州五街道事業開催
「Kids' ISO14000プログラム」北九州への導入
会員拡大事業「JCコミュニケーションパーティ」開催
2007 ローカル・マニフェスト型公開討論会の開催
全国会員大会誘致運動開始
台北市國際青年商會創立50周年
第1回ALL JC DAY「魂の継承」の開催
恋文俳句の公募
2008 「九州厚生年金会館の機能存続を求める市民運動」
署名活動・シンポジウム・チャリティーコンサートの開催
北九州人間力大賞2008の開催
ecomana家族・小学校の開催(環境マナーコンテスト)
2009 OTONAの米作り開催
百万まつりでライトダウンの開催
第40回IFP児童交換事業記念式典開催
日本JC2012年度第61回全国会員大会主管決定
「青空がほしい」プロジェクト
親子でもったいないスクール開催
地域情報誌「Zutto北九州」発行
2010 ひまわり1万本プロジェクト開催
JAYCEE進化論プログラム開催
北九州JCガイドブック作成

小倉祇園太鼓像建立

平成10年までJR小倉駅前広場の中心に位置し、待ち合わせ場所として知られていたこの像は、北九州五市合併が決まり、それを待つ時期の昭和34年、当時の小倉青年会議所が創立5周年を記念して、「地域の記念になるものを」という小倉駅長の希望もあり、祇園太鼓像を設置。モデルは前年の祇園まつりで優勝した旭町子供会で、高さ3m、1辺15cmの杭が小倉駅前広場の中央に打ち込まれた。「意思・遺志に通ずる」として各町内名を書いたたくさんの石を集め基礎としたため25トンにもなった。除幕式は7月9日に行われた。以来北九州青年会議所会員は、毎年6月に祇園太鼓像の清掃と飾り付け行い、それが北九州の夏を告げる風物詩になっている。

紫川浄化運動

昭和43年、北九州青年会議所は、「紫川浄化運動」を提案しスタートさせた。この実施計画を発表するなり、マスコミも大きな関心を示し、北九州市や小倉北区役所が、市民とともに全面的に支援することを約束。「心も川も美しく」をキャッチフレーズにした運動を、官公庁、民間諸団体、県・市議会議員他に呼びかけ、ついには町内会員を中心にした「紫川をきれいにする」市民運動推進委員会を北九州JC主催で開き、JC運動から市民運動へ展開していった。青年会議所会員も悪臭にむせ返る、紫川・貴船橋下流のごみを泥んこになって拾った話は、今でも語り継がれている。以降全市的に、川をきれいにする住民運動へとつながっていった。昭和48年には市も参加して鮎の稚魚5千匹を放流。60年には前年放流した鮎2世が、海から上がってきているのを確認することができたのである。

「到津遊園地」に象がやって来た。

到津動物園のサリーとラン

昭和53年、北九州で唯一の動物園である「到津遊園地」で、28年間子供たちのアイドルとして親しまれてきたメスのインド象のタイ子が亡くなった。何とかして後任を見つけたいところだったが、昭和50年から自然保護をうたったワシントン条約により、象の入手が閉ざされていた。そこで到津遊園地側より、北九州JCに象誘致の要請があった。親交が深かったスリランカのウェラワッタJCを通じ、象誘致のさまざまな努力が行われた。その努力が実り、過去10年間、例外的に、アメリカのカーター大統領の令嬢に1頭プレゼントした以外は、象の輸出を認めていなかったスリランカから、2頭の子象を誘致することが実現した。

KITA ㈶北九州国際技術協力協会

オイルショック以来、北九州の地域経済は回復せず、低迷を続けていた。この状況の中で、いかにすれば地域経済の恒久的浮揚が可能であるかとの議論が北九州青年会議所会員から湧き起こり、昭和53年2月「北九州の産業経済を考える会」が発足、一大市民集会へと発展した。その市民集会の場で、当時の吉永正義理事長より国際製鉄大学の建設・国際空港の設置、および国際港の機能整備が提言され、その内、大学構想提言が実学研修構想となり㈶北九州国際技術協力協会(通称KITA:カイタ)発足の起源となった。KITAは、北九州市を産業技術交流都市にすることにより、当市の持つ潜在的な工業技術力を開発途上国の人々に伝え、それらの国々と技術交流を行うことにより、当市の経済を浮揚させる事を目的としている。またKITAは、途上国研修員が北九州に滞在中、日本の文化・伝統・習慣・歴史・考え方等を理解してもらうために各種の国際親善交流プログラムも実施している。

KITAの研修生たち

まつり北九州

五市が合併し10年、昭和48年9月1日に始まった。西日本産業経済圏の中心になるはずの北九州は、そのころ「経済大国」の流れから取り残され、どちらを向いても暗い話ばかりで、若者のいない町になろうとしていた。また、いつまでたっても旧五市意識が抜けきれないと、誰もが感じていた時期でもあった。「五市のまつりを集めて、北九州のまつりを見せたい。そうすれば五区の意識の解消にもなるのではないか」。の一言をヒントに新しい故郷づくりはスタートした。それ以来、現在の「わっしょい百万夏まつり」に名称は変わったが、北九州市民のまつりとして定着している。

第1回「まつり北九州」の盆踊り

「まつり北九州」から
「わっしょい百万夏まつり」へ

公益信託北九州市青少年健全育成基金「積木の箱」「百万市民一人百円」をスローガンに募金

日本の少年非行は、1951年と1964年をピークに、1970年まで減少傾向にあったが、1977年頃から急増して深刻な社会問題となっていた。北九州市でもシンナー遊びや暴走族など非行問題がクローズアップされていた。北九州JCはこれまでにも青少年健全育成関連事業に力を尽くしてきたが、非行防止の事業の難しさと切り口の困難さを認識していた。しかし1983年その困難さを乗り越えてこそ、新しい事業を指示する北九州JC創立30周年の記念事業にふさわしいと考えた。「積木の箱」の趣旨を出来る限り多くの市民に知っていただき、協力していただきたいと考え、小さなお金をたくさんの方から集める募金活動を企画した。「100円を百万市民から集めよう」すなわち1億円を目標に募金活動を実施した。北九州JCの全会員とその家族の参加による街頭募金を1984年6月10日、延べ100回の目標を達成し5000万円強が集まった。この年9月、「公益信託北九州青少年健全育成基金・積木の箱」が九州で初めての公益信託として許可された。以来20年以上にもわたって「積木の箱」は、非行防止活動や補導活動をされている方たちを資金の面から支え、青少年の健全育成に貢献している。

北九州ドリームサミット

10年後を見据えた北九州市のまちづくりを担う人材を創造することを概念とし、中学校3年生の代表が10年後の「このまちの未来」・「将来の夢」を真剣に考え、夢未来物語を創りだし、そして、自分のいる地域社会が「大切なもの」と捉え、地域社会への貢献を「しなければならないこと」から「したいこと」へ昇華させることを目的に2005年に第1回北九州ドリームサミット（KDS）が開催された。本会議当日、「KDS議員宣言文」を作成し、自分たちでできるまちづくりとして、「私たちは『北九州』に住んでいて良かったと思うことができ、北九州市民がもっとすてきな笑顔で安心して暮すことのできる『まち』をつくる」ことを目的に3つの宣言をした。そして2006年には北九州市内中学校全71校の生徒1名ずつが参加し、体験を通じて知識を知恵に昇華させることを重視し、第2回北九州ドリームサミットが開催された。「国際」「地域」「環境」の3委員会に分かれ、それぞれの委員会が委員会活動としてさまざまな実体験をし、その体験から感じたことを委員会内で討議した。そして迎えた本会議当日。各委員会の代表者が自分たちの委員会が策定した「北九州中学生条例」を発表し、全会一致で審議可決された。この事業を通じて、KDS議員たちの友情はもちろんのこと、中学校間の横の繋がり、さらには地域を越えた北九州市全体の力をひとつに束ねる機会となった。

ピッツバーグルネサンスと北九州

低迷する北九州市の経済をいかに活性化させるか。北九州JCを取り巻くテーマであり、地域社会からの期待でもあった。

折りしも昭和61年2月、NHK北九州が放映した番組の中で、鉄都ピッツバーグの総合文化都市への再生が紹介され、北九州JC内で同市についての研究が始まった。同年9月、ピッツバーグルネサンスと呼ばれる都市再生運動を調査するため、北九州JCは視察団を同市へ派遣した。視察団は、煙の街の面影もなく美しいゆとりある街並みを目の当たりにし驚嘆した。その変貌の原動力となったのが、産官学民が強いパートナーシップで結ばれたアレゲニー地域開発協議会であった。これを中心として、市民自身が街を変えたのである。翌62年、北九州JCは内部の地域活性化促進会議を発展的解消させ、「21世紀構想委員会」「アピール北九州委員会」を発足させた。7月には末吉市長を中心に一般市民を含む総勢100名の大視察団が結成され、再びピッツバーグへ向かった。その結果、商工会議所はほか多くの団体・市民の結集により翌63年4月、北九州活性化協議会設立委員会が発足した。そして同年9月には、ピッツバーグのアレゲニー地域開発協議会の北九州版である北九州活性化協議会（KPEC）が設立されることとなった。

Kids'ISO14000プログラム

環境首都を目指す北九州市に必要な環境教育プログラムとして、Kids'ISO14000プログラムの普及活動およびインストラクター育成事業を行った。Kids'ISO14000プログラムとは、企業の環境認証システムでもあるISO14000プログラムを子ども用にアレンジしたもので、『(1)子どもがリーダーとなり家庭内で家族とともに実践できること(2)定期的に学校で進捗状況が確認でき、やりっぱなしになりにくいこと(3)自分なりの目標数値を定めることができ、実測定によってエネルギーの消費量を自分自身の目で確認できること(4)地域にインストラクターが存在すれば、必要時にその都度的確なアドバイスを学校と連携して行えること(5)がんばった子どもたちには国連大学・ISOからの認定証をもらうこと』ができることなど、さまざまなメリットがある。

2006年度は福岡教育大学付属小倉小学校、清水小学校、青山小学校、鞘ヶ谷小学校、陣山小学校、そして八児小学校の6校321名の小学校5年生が入門編を受講する事になった。入門編のワークブック提出者が約290名、そして希望者のみが受講した初級編は100名以上の子どもたちがチャレンジした。6週間の日程を経て、初級編のワークブックを修了した子どもは38名だった。10%程度の合格率と言われている初級編の国際認定者に17名もの合格者が誕生した。一方、インストラクターに関しては3回のプログラム説明会および適性検査を実施、その合格者を対象にインストラクター講習会を開催。九州初のキッズインストラクターが誕生した。

MEMBERS LIST
2011年度 業種別会員名簿

飲食業・食品日用品卸業小売業
赤瀬　剛　㈲エンタープライズ福岡
井上　知巳　井上食品㈱
浦木　隆代　家庭食彩ぼちぼち
大石　茂　思恩（しおん）（真空管）
大内　俊明　パブリックハウスブラボー
大串　清晴　㈱anto.jp
岡本　興大　㈱果樹農園森の風
小野　卓爾　㈱オーエンオー
角　裕一　㈱EMBODY
清永　東誉　㈲うめ屋
久間　猛　お茶の久屋
坂本　和代　㈲五和屋
清水　宏晃　㈱W
末永　豪士　㈲浜や
末松　雅之　㈲オー・ジー・アイ セブンイレブン小倉馬借店
竹中　保之　ふく一別館 竹なか
壺山　貴生　㈱龍園・粋麺工房㈱
永田　康浩　ベストフーズ㈱
中村　和也　クラブロザリオ
縄田　康秀　きくつぎ酒店
林田　直子　林田興産㈱
原田　茂樹　㈱つる平
久野　茜　RURAL
吹上　真一　Sin City -MusicVar-
藤原伸之介　ふく一
松藤　浩史　松藤米穀㈱
松本　愛　季のしつらい 吉住
丸嶋　宗紀　㈱丸島園
宮熊　伸一　㈱宮熊
棟久　裕文　㈲イーストウッド
目原　和憲　極東ファディ㈱
安河内克枝　㈱安河内綜合食品
安田　智　㈱ヨシトミ
矢野　秀貴　mini club SAZAN
山田　宜典　㈲山田芳太郎酒店
吉田　妃佐　紅光グループ
吉武　太志　㈲インテンド

ホテル・旅館
植村　昭彦　㈱リーガロイヤルホテル小倉
小嶋　亮　㈱千草
竹口　敬介　小倉ターミナルビル㈱
吉井　大記　㈱アズエル

石油・ガス燃料・科学薬品関連
小田原寛明　㈲小田原興産
武智　充　㈱豊徳
中野　智実　㈱新光
松田健一郎　㈲ニューげんかい

広告関連・イベント企画・印刷業・ソフト開発・情報誌
池内　道広　㈱BBDO J WEST 北九州支店
今手　勝己　㈱メディアリンク
岩本　哲哉　㈱パコラ
梅野　伸二　㈲なかい印刷
越智　芳浩　㈲ソフトブレスワン
角　裕一　㈱EMBODY
郷田　和正　㈱ヴィンテージ・プロダクションズ&コンサルティング
古賀　龍太　㈲ピア
小金丸数嘉　よしみ工産㈱
小迫　奈緒　Music Trinity
小迫　美緒　㈱ミオデコ
西藤誉志也　㈲ケイエス企画
登根慎一郎　㈲アッシュ
谷口　和朗　㈱the on
永富　幹盛　㈲せい舎
濱田　龍介　企画部 Lill Juferi
平野真一郎　㈱メリーメーカー
松田　健作　㈱ウイング
村田　仁志　コアデザイン
元杭　由佳　㈲トータルイベントプロモーション
森田　裕之　㈱読売広告西部
矢野　大喜　創造実験室・アリゾナ
山賀　英生　㈱ヤマガ

文具・事務機器販売・通信機器販売・家電販売
井上　清隆　㈱リズ・トーチク砂津店
加来　典崇　㈱加来文機
片岡　俊洋　ファイバー福岡㈱・エネルギー資源㈱
佐藤　良樹　㈱カント
貞末　光平　㈱リベラル
吉武　太志　OAセンター㈱
渡邉亜樹子　㈱ジュネック
脇田　克彦　㈱タカギ

政治・行政・国の機関
井上　敏和　福岡県議会議員
上野　照弘　北九州市議会議員
江頭　清輝　参議院議員 自見庄三郎事務所
大久保無我　北九州市議会議員 大久保無我事務所
緒方林太郎　民主党福岡県第 9区総支部
城井　崇　民主党福岡県第10区総支部
瀬来慎一朗　北九州市議会議員 森浩明事務所
鷹木研一郎　北九州市議会議員
戸町　志穂　とまち武弘後援会
松尾　統章　福岡県議会議員
吉村　悠　吉村事務所

産業廃棄物収集運搬業・採掘業
高山　智江　㈲夏目商店
花田　英孝　花田商会
山中　祐樹　九州ヂャニターサービス㈱

産業用包装材販売
平川浩太郎　平川産業㈱

遊技場経営・写真撮影業
大貝　敏之　㈲大貝写真館
田中　淳　㈱アーク

旅行業・運送業・旅客運搬業
尾尻　憲一　鎮西門司港運送㈱
榮　隆志　名鉄観光サービス㈱
鮫島　康弘　㈱タイガートラベル
中島　祐太　西鉄旅行㈱
西川　知子　㈱マルニシ
森　憲太郎　㈱JTB九州 北九州支店
山田康一朗　山田港運倉庫㈱
横井　寛子　㈱中組
吉田　幸正　紫苑タクシー㈲

建設・土木・空調工事・資材販売・住宅資材関連
阿納　勉　阿納工匠
荒木　健吾　㈱荒木工作所
有永　圭亮　㈲有永軌道工業
井藤　優作　㈱イコーハウス
大坪　和貴　大坪塗装工業㈱
大山　正則　㈱大山組
岸本　秀康　㈱セイワハウジング
木村　哲也　㈱キムラ商工
桑島清太郎　三共エアコン㈱
桑原　悠太　㈱クワハラ
許斐　智夫　日石工業㈱・日石商事㈱
重永　裕子　㈱重永建設
重廣　謙臣　㈲石装 臣
隅田　圭祐　観己㈱
瀬戸口正章　日本ライフサポート㈱
曽根　康仁　積水ハウス㈱
髙藤　章雄　髙藤建設㈱
竹内　陽平　㈱泰平住建
竹中　達也　竹中工業㈱
田中　秀治　㈱セイワ
谷口　彰　㈲ウテナ鈑金製作所
谷口　貴幸　㈱常盤空調設備
長澤　真純　㈱ワン・オフ
中野　創　㈱長谷部電設
中西　貴雄　㈱ワイズホーム
花田　英孝　花田商会
濱田　龍介　㈱タスク
原口　和也　原口建設㈱
東原　文久　東原クレーン工業㈱
藤永　佳宏　㈱九州緑化建設
藤本　知秀　㈲藤本建設
溝渕　浩太　㈲大徳建設
村田　誠司　㈲ムラタ電業
安岡　孝　㈱安岡工務店
山口　隆司　㈱加賀
山田　忠弘　㈱アーテックハウス
山本　将大　㈱山協工務店
横井　寛子　㈱中組
横溝　又一　㈲横溝工務店
吉田　妃佐　㈱中柴工務店

建築設計・測量
安東　崇夫　安東建築設計事務所
小野　将義　㈱小野設計
権藤　雅大　権藤設計商店
三反田裕希　㈲吉造
鈴木　崇正　㈱スズキ設計
髙橋　雅彦　㈱高橋環境建築設計
豊川　智彰　㈱豊川設計事務所
長澤　真純　㈱ワン・オフ
中條　雅文　アールエル建築デザイン事務所
濱田　龍介　㈱タスク
村上　紀章　村上登記測量事務所

自動車販売・自動車整備・タイヤ販売・水上バイク販売
入田　泰宏　㈲西部タイヤ
内川　英樹　ミスタータイヤマン内川 ㈲内川タイヤ
川本　辰史　㈲福生自動車
時枝　智一　アーニーズブロス
三浦　　亮　㈱ファーレン九州 アウディ北九州

人材派遣業・業務請負業・生活代行業
畦津　良介　㈱アルファ
安部　優治　㈱SP-Link
有冨　　修　㈱ライフクリエイト・ベンリー小倉横代店 エコブエス小倉店
片山　正之　㈱プラスアド
白石　祥子　協同組合アクシス・新電電協力事業協同組合
松本　良平　ワークナイン㈱

贈答品販売・記念品販売
有江　大輔　シャディサラダ館到津店
田代カホル　㈲エンジェリック
松田　貴志　㈱和光

鉄鋼・機械工業・半導体・製造販売
石川　利彦　福栄工業㈱
岩永　武士　岩永工業
斉藤　勝亮　㈱光一工業
髙倉　龍一　㈱知那工業
田中　一徳　富士コンプレッサー工業㈱
福本　和弘　㈱プランテック ㈱エフオート
矢野　晶照　㈱ヤノテック
山下　浩毅　ミナト機工㈱
山本　和男　㈱山本工作所

電気工事・電気機械器具製造業
遠藤　秀暢　大九産業(株)
古賀　圭太　古賀電工
杣　　剛　昭電テックス㈱
平野真一郎　㈲風電工
藤内　清次　藤電設

不動産業・不動産鑑定士
井上　　馨　㈱曽根興産
瓜生　資識　㈲ハーベスト瓜生
岸本　秀康　㈱セイワハウジング
國政　博文　㈱クニホーミング
小瀬戸　寿　㈲賃貸ホームセンター
小髙　　伸　㈲ファーバン都市開発
兒玉　雄太　協栄興産㈱
重永　裕子　㈱若松不動産
柴田　喜博　コーポSHIBATA
髙宮　一壽　マルタカ産業㈱
田中　　淳　㈱アーク
田中　徳将　㈱エルザ
谷岡三四郎　㈱丸玉
中村　久将　東洋地建㈱
林田　直子　林田興産㈱
原田　　圭　㈲不動産のはらだ
平田　陽介　㈱デュプレックス・デジリング
広瀬　建策　㈱タウン・リフォームセンター・㈱タウン情報センター
廣田　　豊　㈱不動産のデパートひろた
道村　信仁　㈱三ツ矢不動産
山口　隆司　㈱加賀
山本　紗織　㈲ニナタ商事
吉田　妃佐　紅光グループ

ファッション・美容・インテリア・雑貨・楽器
泉　　尚人　イズミ貴金属細工
尾﨑　誠司　㈱卑弥呼
小嶋　　慶　㈱セルブ
小林　康弘　㈱小林時計店
三反田裕希　㈲吉造
竹尾　宏幸　ジュエリーサロン美光
中田　誠　　三井ギフト㈲
中野　隆之　㈱ナカノ 宝石・時計・メガネ ナカノ
早矢仕陽子　Total Beauty Ange
松浦　晃子　邦楽の店 渡辺
山﨑　公裕　㈱ソニア ㈱ネオコスメ

自動車学校・専門学校・スポーツジム
小森　敏弘　㈱門司自動車学校 アイルモータースクール門司
野中　裕人　㈱城野自動車学校
仁木　一嘉　Diamondo gym
山本　紗織　DANCE STUDIO S.S.M.
力武　清人　㈱おんが自動車学校
森　　達哉　ファイヤー森ボクシングジム

宗教
池尻　正道　宗教法人 教泉寺
藤上　良裕　宗教法人 浄教寺

冠婚葬祭
角田　周一　㈲中村組葬儀社
河内賢治郎　㈱北九積善社
田中　雅之　㈱サニーライフ アートクレフクラブ明善社
八尋加寿代　㈱せいぜん

生花販売・冠婚葬祭生花
松成　七重　ふらわぁず
安田　洋教　やすだ花のいおり

各種メンテナンス・整備業
木山　宏志　㈱ケンビ
立川　雄一　㈱西日本サニタリーセンター
野田　耕司　㈱東洋美装エスジー
橋本　一夫　おそうじ本舗 永犬丸店
山中　祐樹　九州ヂャニターサービス㈱

医療品販売・薬品販売・調剤薬局・コンタクトレンズ
鶴田　　孝　㈱畑薬品
中山　裕三　㈱中山
水上　直洋　メディカルドリーム㈱・タカラ薬局 江南
守田　　徹　㈱くすりのフタバ
渡部　正信　㈲魚町コンタクト

弁護士・税理士・会計士・企業コンサルティング
掛水　義久　社会保険労務士・行政書士 かけみず事務所
加納　誠士　税理士法人SKC
宗　　守浩　司法書士 ロイヤー合同事務所
野上　裕貴　畑中潤法律事務所
前田　　一　前田俊雄税理士事務所
矢野　博一　税理士法人 セントラル会計事務所

金融業・保険業・証券業
石井　浩春　福岡ひびき信用金庫 到津支店
井上　　剛　㈱インシュアランスバンク
小田　　剛　㈱ウェル・アゲイン
木原　篤史　アクサ生命保険㈱
國﨑　公晶　㈲夢ぷらん
佐々木高志　日本興亜損害保険㈱
澤田　朋秀　㈲ベスト保険サービス
中川成一郎　AIGエジソン生命保険㈱
襖田　匡隆　AIU保険会社
山口　順子　日本生命保険相互会社
吉村　武俊　㈱ライフトラスト

病院経営・介護事業・健康診断
浮城　　稔　㈱ウキシロケアセンター
後藤俊一朗　医療法人 医和基会
後藤　大輔　ケアサポート木輪館 ㈱ゴトウ
西田　　一　社会福祉法人 双葉会
野川　徳仁　医療法人財団池友会 新小文字病院
松井　　聡　社会福祉法人 鷹羽会
向野由岐子　ムクノ歯科医院

共同販売・福祉厚生・協同精算事業・輸出入業
白石　祥子　協同組合アクシス・新電電協力事業協同組合

レンタル・リース業
濱根　宗司　㈱イコール

明日に架ける橋
－あなたの可能性が北九州を創る－
KITAKYUSHU 2011

2011年度シンボルマーク

赤く燃えた「今日(Red)」から、ひまわりのように輝く「明日(Orange)」へと架かる橋をイメージ。
輝く2つの星は、「私たち大人と未来を担う子どもたち」・「北九州が誇る偉大なる先人たち」を表し、
その星は、「5つ(五市対等合併で誕生した北九州)」と
「7つ(七区で構成される現在の北九州)」の輝きと共に、私たちの可能性を表現しています。

The Creed of Junior Chamber International

We believe:

That faith in God gives meaning and purpose to human life;

That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality;and

That service to humanity is the best work of life.

JCI綱領

我々はかく信じる;

信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同朋愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず
法によって運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である

JCI MISSION

To provide development opportunities
That empower young people to
create positive change.

JCIのミッション(使命)

青年が積極的な改革を創造し開拓するために
能動的に活動できる機会を提供する

JCI
社団法人 北九州青年会議所
【事務局】
802-0082 北九州市小倉北区古船場町1−35
北九州市立商工貿易会館6F
TEL 093-531-7910 FAX 093-551-0212
E-MAIL room@kitakyushu-jc.jp
www.kitakyushu-jc.jp/

KITAKYUSHU 2011

Contents

2011年度 理事長所信 02-03
2011年度 理事長所信(英語翻訳) 04
2011年度 理事長所信(中国語翻訳) 05
2011年度 理事長所信(韓国語翻訳) 06
メッセージ(JCI 会頭／日本青年会議所 会頭 北九州市 市長／北九州商工会議所 会頭) 07
2011年度 組織図 08
2010年度 表紙 09
2010年度 理事長所感 10
全国会員大会 準備活動報告 11
2010年度 例会報告 12-13
2010年度 事業報告 14-17
2010年度 日本青年会議所事業 18
2010年度 国際青年会議所・福岡ブロック協議会 事業 19
(社)北九州青年会議所58年の歩み 20-21
2011年度 業種別会員名簿 22-23